

272.1
12

272.1

12



高等小學地理書 卷二

文 部 省





小學地理書

卷二



文
部
省

目録

第一 地球の表面……………一頁

第二 陸地……………三

- 一 火山附温泉……………三
- 二 地震……………八
- 三 陸地の昇降と褶曲……………一〇
- 四 水大氣生物の陸地に及す作用……………一〇

- 五 山脈……………一四
- 六 河川……………一七
- 七 湖沼……………一八
- 八 平野……………二〇

第三 海洋……………二

- 一 海洋の形状……………二

二 海水の性質……………二三

三 海水の運動……………二三

第四 大氣……………二八

- 一 大氣の性質……………二八
- 二 氣温……………二九
- 三 氣壓……………三〇
- 四 大氣中の水分……………三三
- 五 天氣……………三五
- 六 氣候……………三六

第五 生物の分布……………三八

- 一 植物の分布……………四〇
- 二 動物の分布……………四二
- 三 我が國に於ける生物の分布……………四三

第六 人類……………四四

- 一 人種……………四五
- 二 人口……………四七

三 言語	五〇
第七 國家	五一
一 主要國	五二
二 植民地	五二
三 租借地	五四
四 委任統治地	五五
第八 政治	五五
一 政體	五五
二 外交	五八
三 軍備	五八
四 財政	六一
第九 教育・神社・宗教	六二
一 教育	六二
二 神社	六四
三 宗教	六四
第十 聚落	六六

一 聚落の發達	六六
二 都市と村落	六九
第十一 産業	七〇
一 農業附養蠶業	七〇
二 牧畜業	七七
三 林業	七八
四 水産業	八〇
五 鑛業	八二
六 工業	八四
七 商業及び貿易	八九
第十二 交通	九二
一 陸上交通	九二
二 海上交通	九四
三 航空	九五
四 通信	九六
第十三 世界に於ける我が國の地位	九七

高等小學地理書 卷二

第一 地球の表面

陸地



地球の表面の約七割は海洋で、陸地は海洋に隔てられて互に分離してゐる。地球の表面の約三割を占めてゐる。大陸は普通、アジア・アフリカ・北アメリカ・南アメリカ・ヨーロッパ・オーストラリアの六大陸に分たれてゐる。その中アジア大陸が最も廣大で、世界の陸地の約三割を占め、オーストラリア大陸が最も小さく、アジア大陸の五分の一にも達しない。これらの諸大陸は、大體、北部が廣がり、南部が狭く尖つてゐて、大部分が北半球に偏在してゐる。

島はその成因によつて、陸島と洋島とに分たれてゐる。陸島と

海洋



は大陸の一部が陥没し、分離して島となつたもので、日本列島、イギリス諸島等はその例である。洋島とは海中に噴出した火山島又は海底に出来た珊瑚島で、大陸とは少しも關係のないものである。ハワイ諸島、我が伊豆七島の如きは火山島で、我が南洋群島の如きは珊瑚島である。

海洋はその大きさによつて、大洋と海とに分たれてゐる。大洋は普通、太平洋、大西洋、印度洋の三つに分たれてゐる。岸が、太平洋が最も大きく、略、他の二大洋を合はせたものに等しく、最も小さいのは印度洋で、太平洋の約四割に過ぎない。海の中、著名なのは日本海、地中海、

高地二

高地二

海岸

北極海等である。

海岸は或は砂濱をなし、或は磯濱をなし、又遠淺のところもあるし、絶壁をなしてゐるところもある。海岸が深く入りこんでゐるところを灣といふ。六大陸中、海岸線の出入が最も多いのはヨーロッパ大陸で、最も少いのはアフリカ大陸である。日本列島やイギリス諸島は面積の小さいのに比して、海岸線が長いので名高い。

第二 陸地

一 火山附温泉

熔岩又は水蒸氣が地殻の弱いところから噴出するのを火山作用といひ、その噴出物が堆積して作つた高地を火山といふ。火山の噴出物は火口の周圍に最も多く堆積し、これを遠ざか

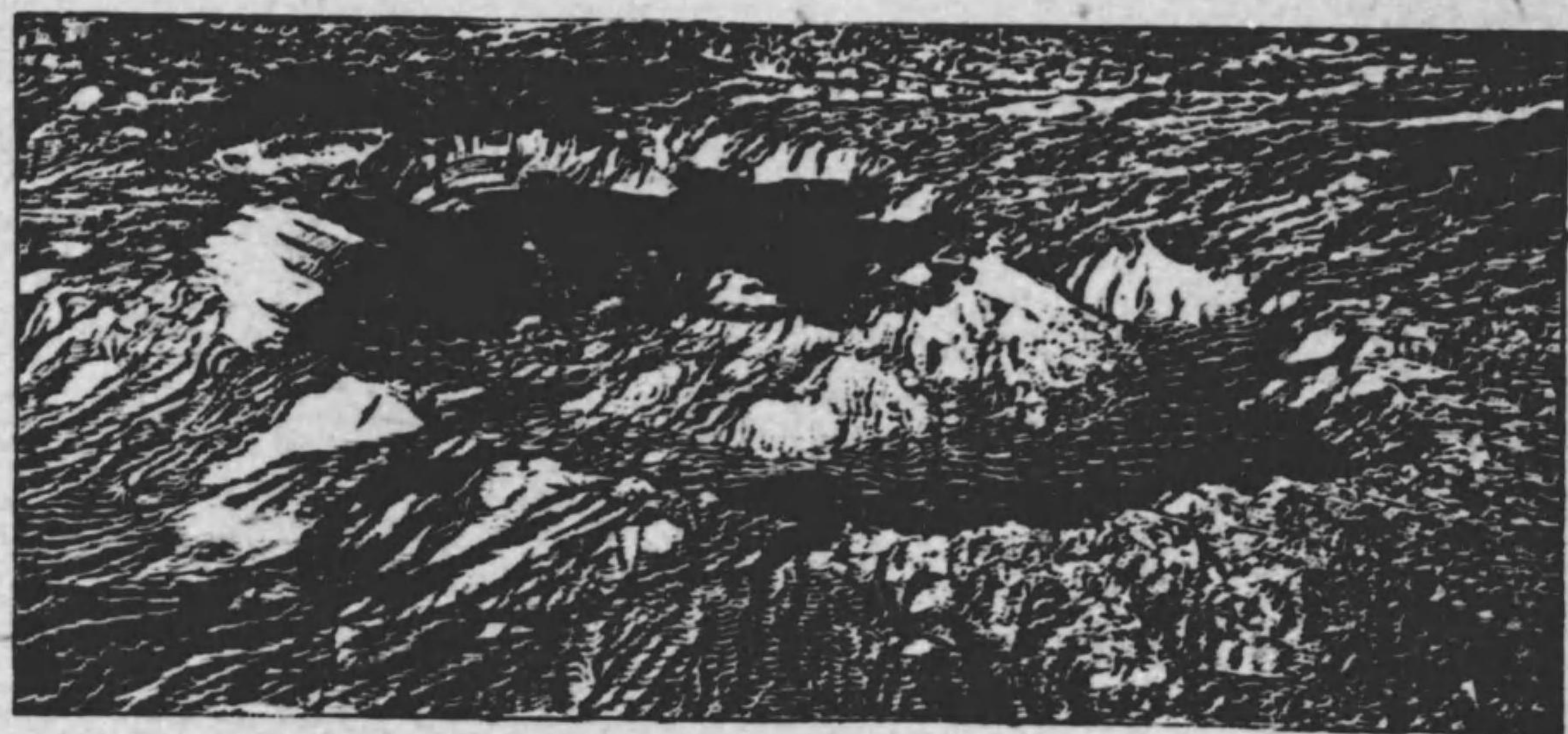
るに従つて次第にその量を減ずるから、火山の形は一般に圓錐状を呈し、頂上に近いところは傾斜が急であるが下るに従つて漸次緩くなり、終にその麓に至れば裾野と呼ばれる平野となつてしまふ。

火山が簡単な圓錐状である時は單式火山と呼ばれる。富士山はその適例である。もとの火口の中に更に新しい火山が出来ることがある。この新しい火山を火口丘といひ、もとの火口壁を外輪山と呼び、兩者の間の低地を火口原と名づける。かゝる火山を複式火山といひ、箱根山・阿蘇山の如きはその適例である。

現今活動してゐる火山を活火山といふ。淺間山・阿蘇山・櫻島の如きは皆活火山である。

火山作用の動機となるものは、地下の鬱積せる水蒸氣である。

我が國の火山



阿蘇山

その噴出の際には火口から屢、熔岩を流し、或は砂や灰を飛散せしめる。又時として水蒸氣の壓力が非常に強く、その噴出の途を火口に求めるいとまもなく、急に山體の一部を破壊することもある。

火山は太平洋方面では日本列島・マレー諸島・ニュージランド・ハワイ諸島及び南北兩アメリカ洲の西岸等に多く、大西洋方面ではアイスランド・西印度諸島・イタリヤ等に多い。

本州の中部には富士山を主峯とする富士火山脈があり、北は八岳を経て妙高山に至り、南は箱根・天城等の諸火山及び伊豆七島を経て南方遙

かに小笠原群島に連なつてゐる。

富士火山脈の北東には那須・鳥海・千島の諸火山脈がある。那須火山脈は浅間・榛名・男體・那須・磐梯・岩手・八甲田等の諸火山及び駒岳・羊蹄山を連ねたもので、本州の中部から遠く北海道本島の西部に及んでゐる。鳥海火山脈は月山・鳥海山・岩木山等を連ねたもので、日本海沿岸を略、南北に走つてゐる。千島火山脈はカムチャツカ半島から起り、千島列島を通つて北海道本島の中部に達して大雪山となつてゐる。

富士火山脈の西には乗鞍・白山・阿蘇・霧島の諸火山脈がある。乗鞍火山脈は御岳・乗鞍岳及び立山の一部等から成り、飛騨高地の東部に連なつてをり、白山火山脈は白山から西に向かひ、中國地方の日本海沿岸を走り、大山・三瓶山等となつてゐる。阿蘇火山脈は阿蘇山を主峯とし、西に雲仙岳、東に九重山を起して

温泉

九州を横断してゐる。霧島火山脈は霧島山に起り、櫻島・開聞岳を経て、遠く南西の海に連なつてゐる。

地下水が地熱のため、に温められて地

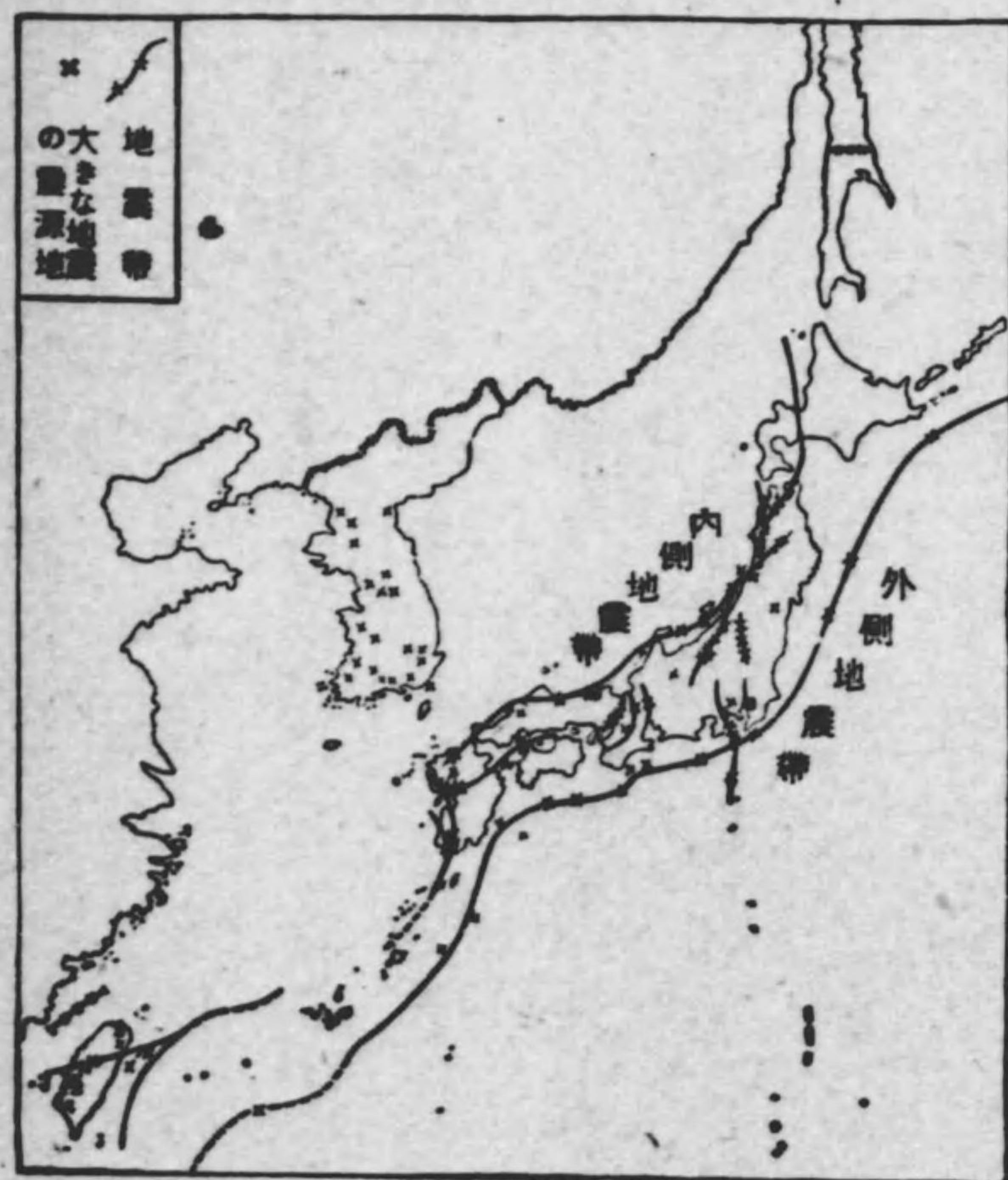
上に湧出するものを温泉といふ。温泉は多く火山活動の餘勢として生ずるものであるから、火山地方に多い。温泉は皆多少の礦物質を含有してゐるので、硫黄泉・食塩泉・炭酸泉・鐵泉などの區別がある。又、礦物質を含有することが極めて少ないものを單純泉といつてゐる。



(年三正大)火 噴 の 島 櫻

二 地震

地殻に急激な変化が起こる時は、その変化は波動となつて四方へ擴がる。この現象を地震といふ。大規模の地震はいはゆる断層地震に多い。又火山の噴火の際にも地震を起すことがあるが、その震動は極めて小さい。



我が國の地震帯

地震は地震帯といつて、地殻の構造の弱いところに發生するものである。世界で最も著名な地震帯は、太平洋の周圍及び地中海から印度に至る地方である。我が國は太平洋の周圍の地震帯にあたり、世界で有名な地震國である。

近年我が國に起つた大地震

我が國の地震帯には、日本列島に沿つて太平洋の海底を走る外側地震帯、日本海沿岸を走る内側地震帯及び處々に小地震帯がある。近年我が國に起つた大地震の中で最も著しいものは、明治二十四年の濃尾大地震と、大正十二年の關東大地震である。濃尾大地震の際地表に生じた断層は、長さ八十里メートルに及び、その高低の差が最も甚だしいところは六メートルに達した。關東大地震は人口の最も稠密な地方に起り、且火災を伴なつたから損害は極めて大きく、家屋の破壊、焼失



濃尾大地震の際に生じた断層

したものの六十八萬戸、死者十萬人に及んだ。

三 陸地の昇降と褶曲

陸地は或は急激に、或は徐々に、隆起又は沈降することがある。海岸に段丘があつたり、汀線の跡が高いところにあつたり、珊瑚礁が陸上にあつたりするのは隆起の證で、森林の跡や陸上の建築物の跡が海中にあつたりするのは沈降の證である。陸地の隆起又は沈降が最も大規模に行はれる時には地殻に褶曲を生ずることがある。かゝる現象を造山作用といふ。造山作用は地質時代に於ては屢起つたもので、現今の世界の大山脈は多くこれによつて出来たものである。

四 水・大気・生物の陸地に及す作用

地殻に對する水の作用は極めて著しいもので、侵蝕・運搬・堆積等の作用を營む。

水的作用

地下水の作用

雨水の一部は地上を流れるが、一部は地下に滲みこんで、地下水となつて地中を流れる。井水は地下水である。又地下水が石灰岩のやうな溶け易いものの中を流れると、屢洞窟を生ずる。秋吉臺にある秋芳洞はその適例である。

河水の作用

地下水が再び地上に出るものは泉で、泉は川の源をなすものである。河水は絶えず河岸と河底とを侵蝕して、礫や土砂を下流に運搬する。河水の侵蝕作用は上流に於て殊に著しく、或は瀧となり、或は急流となり、屢深い谷を穿ち、けはしい峯を作るこ



（あるに川山北流支の川野熊） 丁 八 海

とがある。

河水に運搬せられる土砂は、流が緩やかになるに従つて水底に堆積し、河畔や河口に新しい平地を作る。これが即ち沖積地である。揚子江・ミシシッピ川・ガンジス川等には廣い沖積地がある。我が國の利根川・信濃川・木曾川・筑後川等にも稍廣いものがある。沖積地は地味が概ね肥沃で、農業に適してゐるところが多い。

海水の作用

海水は常に海岸を侵蝕して、或は絶壁を作り、或は島を作ることがある。紀伊半島の沿岸に屹立してゐる絶壁、松島灣内に散在してゐる多數の島の如きは、その好例である。又波は潮流や風と相俟つて海砂を集め、天橋立や夜見濱の如き砂洲を作ることがある。砂洲が発達して海の一部を限つて湖を作ることがある。中海の如きは、その好例である。

氷の作用

高山又は高緯度の地方では、四時積雪の絶えることがない。この積雪が相融合して氷塊となり、徐々に滑り下るものを氷河といふ。氷河はその運動は緩慢であるが、重量が重いので、侵蝕作用は著しい。

大氣の作用

岩石は常に大氣中の酸素・炭酸ガス等の作用を受け、次第にその質を變じ、又氣温の變化、水の作用等によつて分解して、終に砂礫や土壤となる。これを風化といふ。

風は砂を吹寄せて海岸又は沙漠に砂丘を作る。我が國で砂丘の著しいものは鳥取縣の海岸、新潟縣以北の日本海沿岸、鹿兒島縣の西海岸等に見られる。又支那の北部地方にある黄土は、微細な砂塵が風に運搬され、堆積して出來たものである。

生物の作用

生物も亦地殻に種々の作用をする。植物の根が岩石の破れ目に入つてこれを碎くのは、破壊作用の一例である。珊瑚蟲が珊

珊瑚礁を作るのは建設作
用の一例である。珊瑚礁
は熱帯地方の海中に出
来るもので、我が南洋群
島及び琉球列島には處
處に發達してゐる。

五 山 脈

山は火山作用の外、褶曲・
斷層・侵蝕等によつて出
来る。中でも褶曲によつて出来たものには大山脈が多い。ヒマ
ラヤ山脈・アルプ山脈はその適例である。我が九州山脈・四國山
脈の如きも褶曲山脈である。飛驒山脈の如きは斷層によつて
出来たものである。妙義山は火山であるけれども、現今の如き



珊 瑚 礁

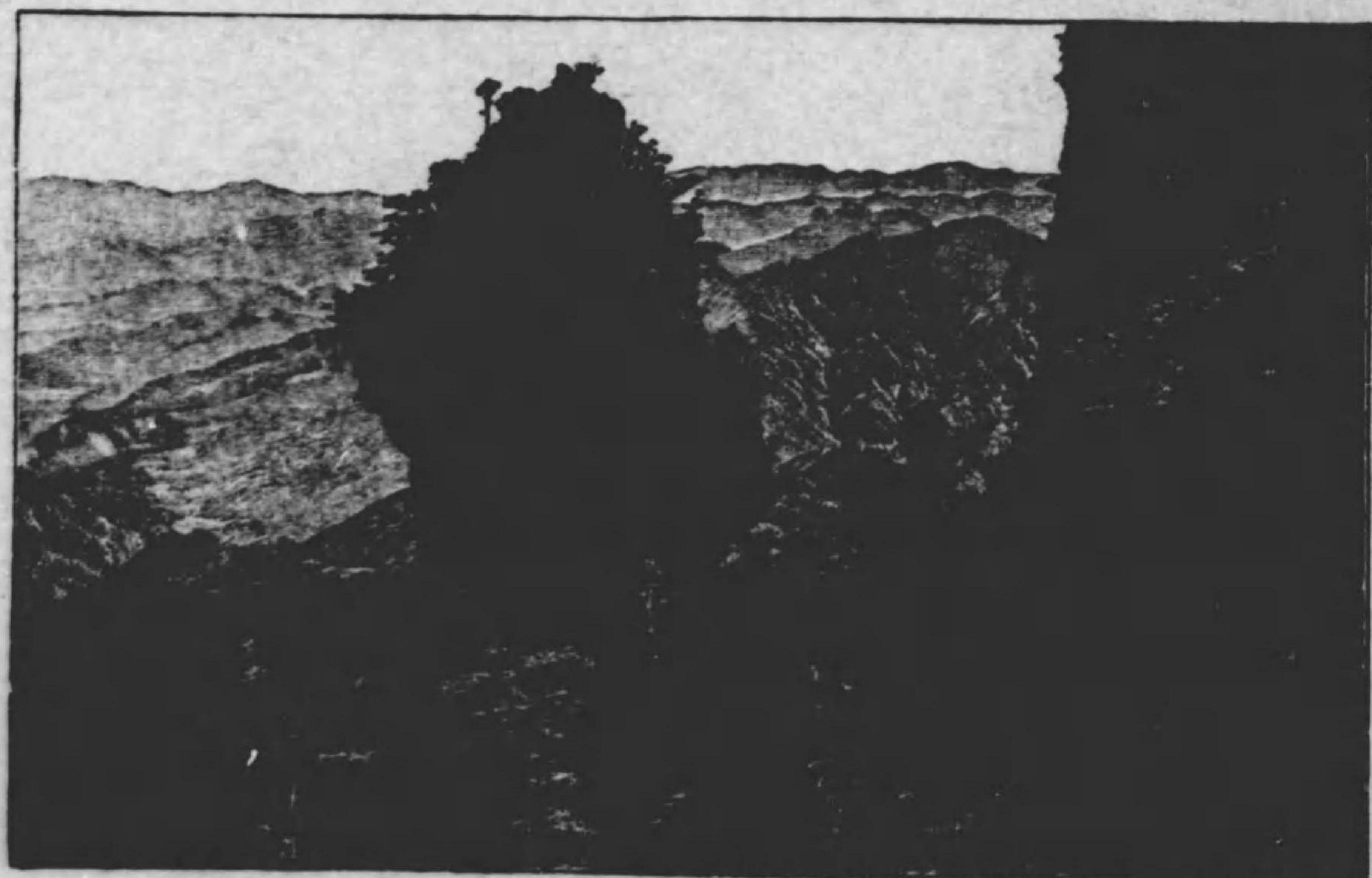
世界 の 山 脈

地形は侵蝕によつて出来たもの
である。

六大陸の中でアジア洲は最も高
く、ヒマラヤ・崑崙等の大山脈があ
る。この中、ヒマラヤ山脈は世界最
高の大山脈で、その主峯エベレス
ト山は海拔八千八百八十二メー
トルで、實に世界第一の高峯であ
る。ヨーロッパ洲にはアルプ、北アメ
リカ洲にはロッキー、南アメリカ洲
にはアンデス等の大山脈がある。

我が 國 の 山 脈

我が國の中部地方は赤石・木曾・飛
驒の諸山脈が連亘して一大高地をなしてゐて、中には三千メ



妙 義 山



は紀伊山脈から四國山脈・九州山脈に連なる一帯である。臺灣

赤石山脈の一帯

一トルを超える高峯も少くない。この高地の北東には奥羽山脈があつて太平洋・日本海兩方面の分水界をなしてゐて、その東に阿武隈・北上の二山脈があり、その西には越後山脈・出羽丘陵があり、共に相連なつて南北に走つてゐる。北海道本島には中央を略、南北に走る蝦夷山脈があつて分水界をなし、樺太には西海岸に沿つて樺太山脈がある。又中部高地の西には南北二帯の山脈がある。北にあるのは中國山脈から筑紫山脈に連なる一帯で、南にあるのは

には、稍、東に偏して南北に縦貫する臺灣山脈があつて、その中には我が國第一の高峯新高山がある。又朝鮮には南部に太白山脈があり、東海岸に沿つて略、南北に連なつてをり、北部にも數條の山脈があつて、南西から北東に連なつてゐる。

六 河 川

川は源を山地に發し、低いところに向かつて流れ、四近の細流を集めて次第に發達し、終に多くは海に入る。川は交通・灌漑・水力の利用等の便を與へるものであるから、川の沿岸には屢々繁盛な都會が發達するものである。

アジヤ洲には大きな川が多いが、交通の便がよく開けてゐるものは揚子江とガンジス川ぐらゐに過ぎない。殊に揚子江は河口から重慶に至るまで二千五百キロメートルの間汽船を通じてゐる。ヨーロッパ洲にはライン・ダニュープ等の大きな川が

世界の河川

あり、概ね流が緩やかで、且運河によつて相連絡してゐるものが多いので、交通の便がよい。北アメリカ洲のミシシッピ川は世界の最長流で、水運の便も非常によい。南アメリカ洲のアマゾン川は水量は極めて多いが、まだあまり利用されてゐない。アフリカ洲にもナイル・コンゴの如き大きな川があるけれども、舟運の便は少い。

我が國の川は一般に長くないのみならず、流が急であるため、交通の便は少いが、水力の利用には頗る適してゐて、到る處に発電所が設けられてゐる。水力発電で最も有名なのは信濃川・木曾川で、これに次ぐものは富士川・黒部川・神通川・庄川等である。

七 湖沼

陸地の廣く窪んだところに水を湛へたものを湖といひ、その

世界の湖沼

淺いものを沼といふ。湖沼は水力を供給し、交通の便を與へ、又魚族を繁殖せしめる。湖沼は水の性質によつて淡水湖・鹹水湖の別がある。

世界で最も大きい湖は裏海で、その面積は我が國の約三分の二にあたり、その東にあるアラル海及びエルサレム附近にある死海と共に著名な鹹水湖である。死海は陸地の中で最も低いところで、その水面は海面下約四百メートルに及び、その水は塩分が甚だ多いので、魚類は生活が出来ない。又北アメリカ洲のスベリオル・ミシガン等の五大湖、アフリカ洲のビクトリヤ湖、シベリヤのバイカル湖等は名高い淡水湖である。

我が國には湖沼の數は多いが、廣大なものはなく、概ね淡水湖である。その中で最も大きいのは琵琶湖で、交通・灌漑の便もあり、水産物も多く、又水力の利用も盛である。その他、霞浦・濱名湖

我が國の湖沼

八郎瀉猪苗代湖・穴道湖・中禪寺湖・諏訪湖等も著名である。

八 平野

平野は平坦な廣い土地で、その地味が肥沃なところでは農業が盛に行はれ、随つて他の産業も起るので、人類活動の最適地となつてゐる。

アジヤ洲には支那・滿洲・印度・メソポタミヤ・シベリヤ等の平野がある。中でも支那平野・滿洲平野・印度平野は農産物が豊富なので著名である。ヨーロッパ洲の東部にある大きな平野は、西に連なつてポーランド・ドイツを経て、フランスに及んでをり、ハングリー・イタリヤ等にある平野と共に、いづれも農業及びその他の産業が盛である。又北アメリカ洲の中部にある廣大な平野は盛に開拓されて、産物が豊富である。南アメリカ洲の中部にある平野も近頃大いに開拓された。

世界の平野

我が國の平野

高原

我が國は地勢が高峻で、土地が狹長であるから、平野には大きいものがない。稍見るべきものは關東平野・越後平野・濃尾平野・大阪平野・筑紫平野・石狩平野・臺灣西部の平野、朝鮮の西部・南部にある諸平野等で、いづれも産業が盛である。高原は高い處にある廣い平地で、アジヤ洲には蒙古・西藏・イラン・デカン・アラビヤ等の高原がある。アフリカ洲・オーストラリヤ等の内部にも廣大な高原がある。

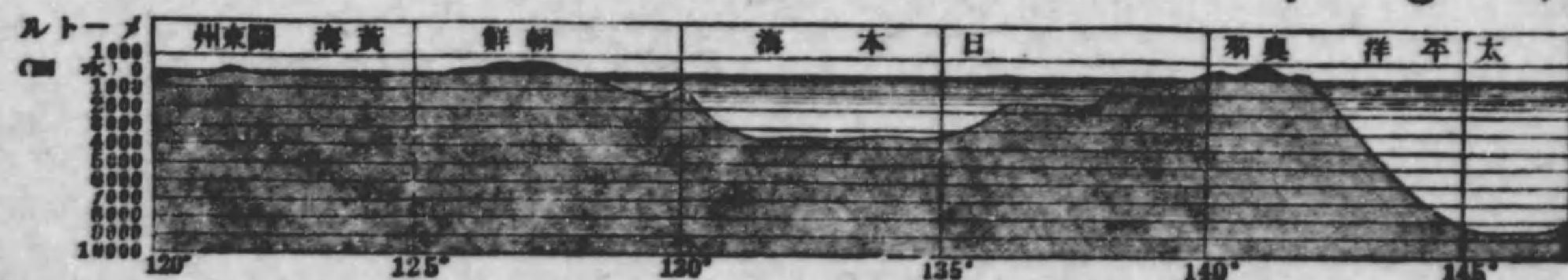
第三 海洋

一 海洋の形状

海洋の周邊には深さ二百メートル以下の淺海がある。これは陸棚と呼ばれ、一般に傾斜が緩やかである。これを越すと急に深くなつて、いはゆる深海となる。海底の非常に深いところで

細長い溝状をなしてゐるところを海溝といふ。フィリピン群島の南東にあるフィリピン海溝は世界で最も深いところで、その最も深いところは一萬八千三百メートルに達してゐる。

我が國の近海は太平洋方面が深く、伊豆七島の東にある日本海溝の最も深いところは一萬六千メートルに達し、マリヤナ群島附近にあるマリヤナ海溝の最も深いところは九千八百メートルを超えてゐるが、日本海方面は割合に浅く、最も深いところでさへ三千七百餘メートルに過ぎない。黄海と東支那海とは殊に浅い。かりに我が近海の深さが二百メートル減じたとせば、我が日本列島の大部分は互に相接續するであらう。



我が近海断面の面

二 海水の性質

海水は平均千分の三十五の塩分を含んでゐて、淡水よりも比重が大きい。海水の表面の温度は熱帯地方が高く、兩極地方に至るに従つて次第に低くなるが、海底では海水の温度は一般に低くて、殆ど一樣である。

兩極地方の海面は年中大てい氷結してゐて、その氷がわれて流れてゐるものが流氷である。氷山も亦海中に流れてゐる氷塊であるが、海水の氷結して出来たものではなく、氷河の末端が海中に落ちて流れてゐるものである。



南極の氷山

三 海水の運動

海流は海水が一定の方向に流れるもので、その温度によつて暖流と寒流とに分たれる。暖流はすべて赤道附近に起り、赤道海流となつて、西に向かひ、大陸にあたつて南北の二派に分れ、漸次方向を變じ、終に各、一大環流をなすに至る。寒流は兩極地方に起つて赤道の方へ向かふものである。暖流も寒流も共に氣候・水産物・交通等に大きな影響を與へるものである。北大西洋ではメキシコ灣流と呼ばれる暖流と、ラブラドル海流と呼ばれる寒流とが著しいものである。メキシコ灣流は北赤道海流で、メキシコ灣岸を洗ひ、大西洋を横斷してヨーロッパの北西岸に沿つて流れ、終に北極海に達するもので、西部ヨーロッパは其の影響を受けて、冬季の氣温が比較的温和である。ラブラドル海流は北極海に起り、北アメリカ洲の北東岸に沿つて南流し、ニューファンドランド島の近海に至るものである。

我が國の近海には日本海流千島海流等がある。日本海流は一名黒潮くろしほと呼ばれ、北太平洋に於ける著しい暖流で、フィリピン群島の邊から北に向かひ、臺灣及び琉球列島の海岸を洗ひ、九州・四國・本州の太平洋岸に沿つて流れ、金華山沖で東に向かひ、北アメリカ洲の西岸に達するものである。對馬海流は日本海流の支流で、琉球列島の近海で分岐し、九州の西を過ぎて日本海に入り、本州・北海道本島の西海岸を洗ひ、更に樺太島の西海岸に達してゐる。千島海流は寒流で、一に親潮おやほと呼ばれ、北極海に起つて、カムチャツカ半島の近海から千島列島に沿つて南西に向かひ、更に北海道本島に沿つて南下し、本州の北部の東岸を洗ふものである。なほ、樺太海流・リマン海流の二つの寒流があるが、共に著しいものではない。これらの暖流及び寒流は、我が國の氣候・水産物・交通等に大き

潮汐

な影響を與へてゐる。たゞ日本海流が我が國の南方を流れてゐるのに、冬の季節風が北風又は北西風であるので、我が國の冬の氣候を緩和することが少いのは甚だ遺憾である。奥羽地方の太平洋沿岸は千島海流に洗はれるので寒い、日本海沿岸は對馬海流の影響を受けて暖い。又北海道本島及び樺太に於ても、同じ理によつてその東海岸は寒い、西海岸は比較的暖い。殊に樺太では東海岸は冬季、全部氷結するが、西海岸には本斗・真岡の如き不凍港さへある。

海水は凡そ十二時間毎に一回の満干をする。これを潮汐といふ。潮汐は月及び太陽の引力によつて生ずるものであるが、主として月の引力によるものである。朔と望との頃は満干の差が殊に大きい。又満干の差は海陸の位置、海岸の形状等によつて異なるものである。満干の差が殊に大きいのは北アメリカ

潮流
波
津波



昭和八年奥羽地方の東海岸を襲つた津波の被害

洲のフンデー灣で、その差は二十メートルを超えてゐる。我が國で有名なのは仁川附近と有明海とである。

海峽や瀬戸や、又は浅い海では、潮汐のため海水の流が出来ることがある。これを潮流といふ。我が國では鳴門海峽が最も名高い。

波は風によつて起る。風が強くなるに従つて波も高くなり、時にはその高さ十餘メートルに達することがある。

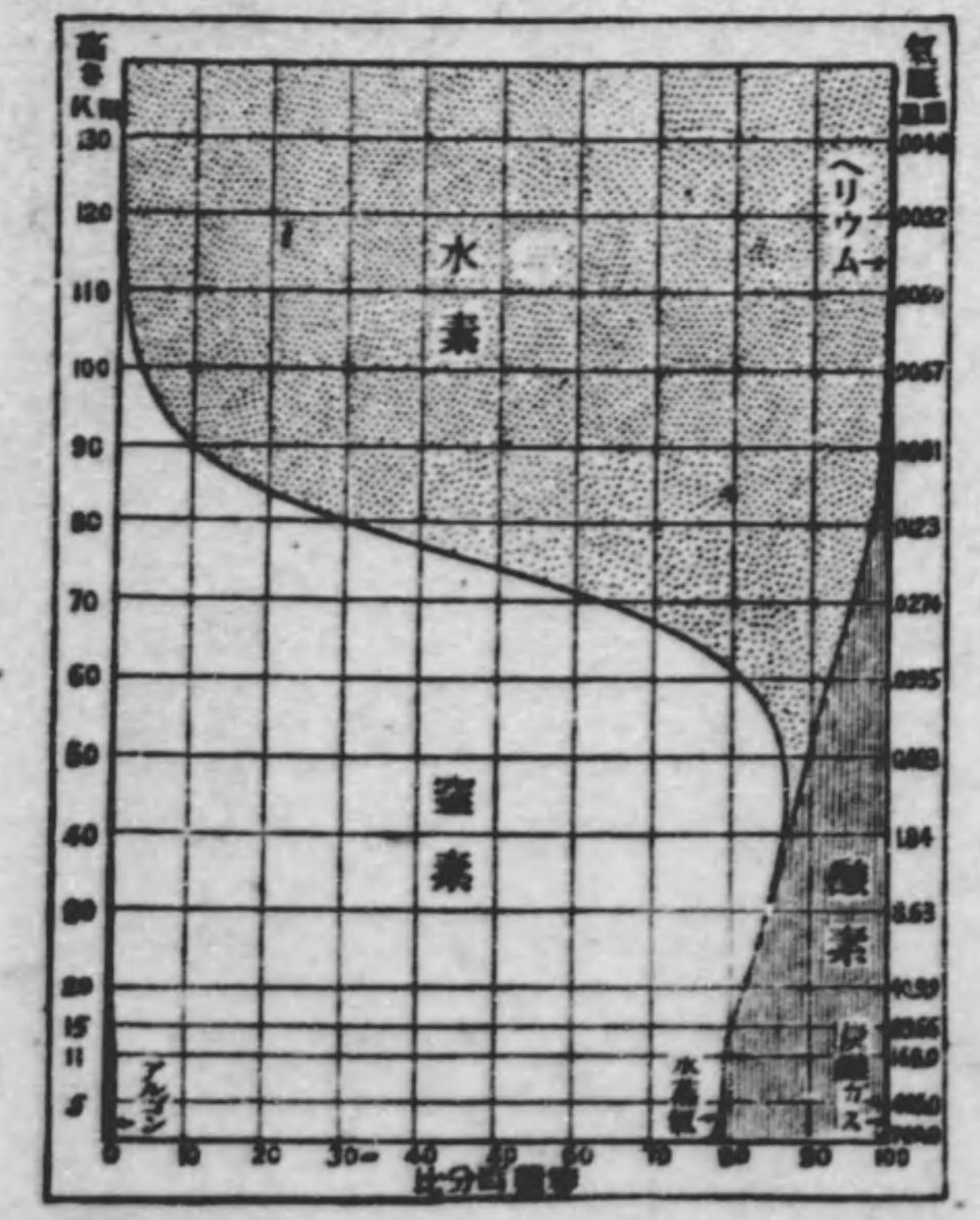
津波は大きな波が急激に海岸に襲來するもので、その原因は地震・暴風

等である。明治二十九年及び昭和八年、奥羽地方の東海岸を襲つた大津波は、太平洋海底の外側地震帯に起つた大地震によつて生じたもので、その損害は可なり大きかつた。

第四 大氣

一 大氣の性質

陸と水とを包んで地球の外層をなしてゐるものは大氣である。大氣の高さは數百キロメートルに及んでゐる。その上層は殆ど水素ばかりであるが、下層はいはゆる空氣で、主として酸素と窒素との混合物から成り、少量の炭酸ガス、水蒸氣等を含んでゐる。



大氣の成分

二 氣温

大氣の温度を氣温といふ。氣温は赤道地方に高く、兩極地方に低い。又地表に近いところは高く、上層に至るに従つて低くなる。しかし地形、水陸の分布、海流等の影響を受けることが多いので、緯度及び海拔を同じくする土地でも、氣温は必ずしも同様でない。

世界で最も暑い地方はサハラ沙漠からアラビヤ高原、イラン高原に亘る一帯の地方で、最も寒いのは南極附近及びシベリヤである。

我が國は四面概ね海を回らすので、寒暑は共にあまり酷しくはない。臺灣でも年平均温度二十五度に達せず、最暖月の平均温度二十八度を超えるところは極めて少い。樺太でも年平均温度零度に下るところは少く、最寒月の平均温度零下十八度

に下るところは少い。又南洋群島は熱帯にあるけれども、最暖月の平均温度でさへも二十八度に達しない。

三 氣 壓

大氣の壓力を氣壓といふ。氣壓は土地が高く、氣温が高く、水蒸氣が多い時は低くなり、これに反する時は高くなる。

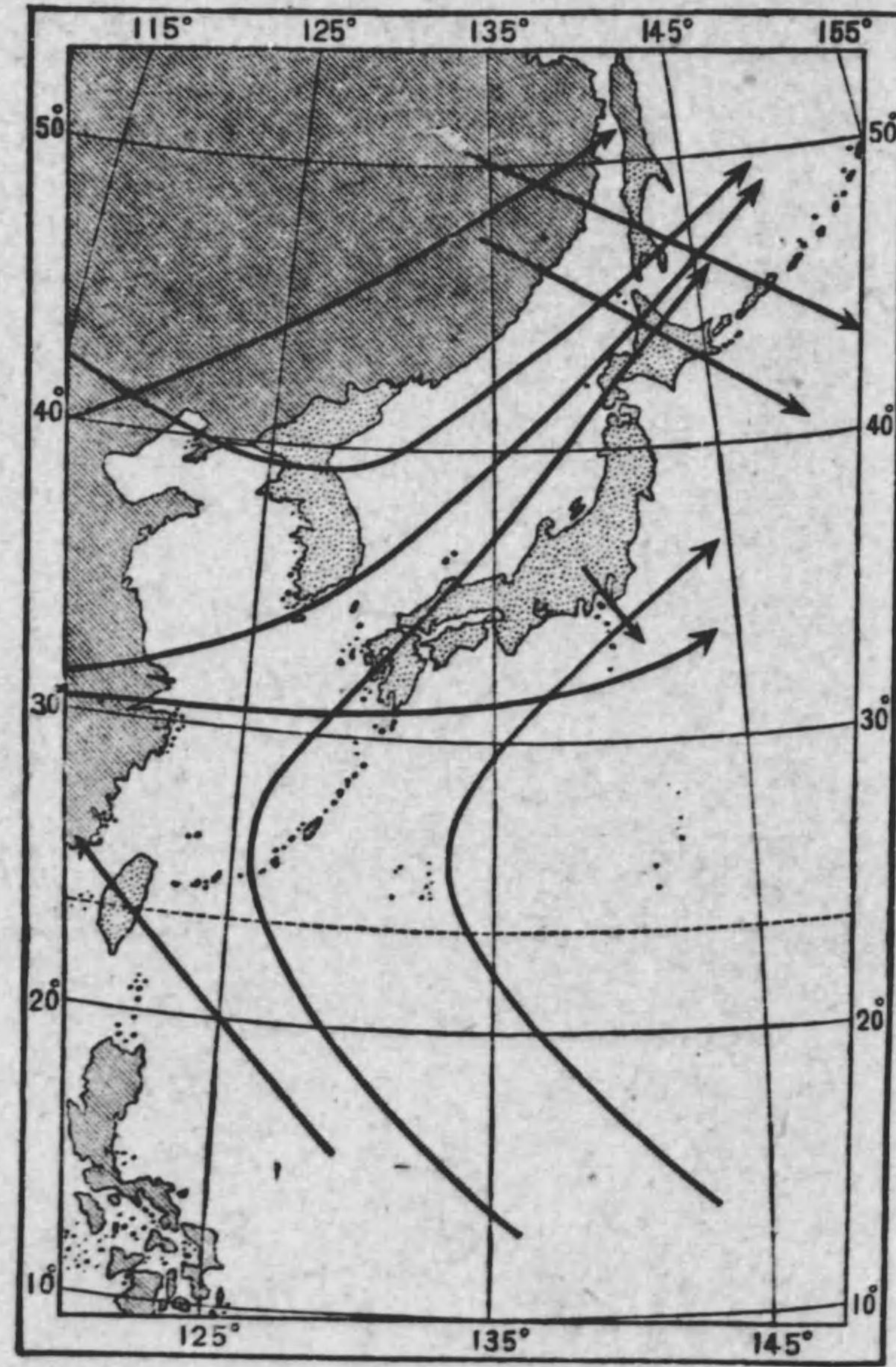
低氣壓は大氣中に起る渦動で、周圍に比べて氣壓が低いところである。高氣壓も亦大氣中に起る渦動であるが、周圍に比べて氣壓の高いところである。

低氣壓は移動する性質がある。低氣壓が近づくと天氣が悪くなり、その中心附近になると風雨を起し、遠ざかると共に天氣がよくなる。高氣壓はむしろ停滯する。高氣壓の域内では、天氣は概ね晴朗である。

我が國の低氣壓の中で最も著しいものは颱風と颶風とであ

低氣壓高氣壓

我が國の低氣壓



我が國の暴風の進路

る。颱風は主として夏から秋にかけてマリアナ群島・カロリン群島附近に發生する低氣壓で、その進路は初は西に向かつてゐるが次第

に方向を轉じ、臺灣附近から北東に向かひ、屢、我が九州・四國及び本州を襲ひ、時には猛烈な暴風雨を起すことがある。二百十日は立春から數へて二百十日目にあたる日で、大てい九月一日であるが、古來荒れ日として著名であるのは、この頃は颱風が最も盛な時期であるからである。

風

颶風は冬季シベリヤ及び蒙古附近に發生し、日本海を渡つて我が國へ來り、北海道本島や奥羽中部兩地方の日本海沿岸に雪をもたらし、屢大吹雪を起すものである。

氣壓の高い方から低い方へ空氣が移動する。これが風である。海岸では海風・陸風の現象がある。陸は海に比して熱の吸收・放散共に速である。それ故、天氣の好い日は、日中は陸の方が氣温が高く、氣壓が低いので、海から陸へ風が吹く。これが海風である。夜は海の方が氣温が高く、氣壓が低いので、陸から海へ風が吹く。これが陸風である。海風と陸風とが交代する際、朝夕一時風の止む時がある。これを朝なき・夕なきといふ。

海風・陸風の起るのと同じ理によつて、夏は大洋から大陸へ向かつて風が吹き、冬は大陸から大洋へ向かつて風が吹く。これを季節風といふ。季節風の盛なところはアジア洲の南部から

東部に亙る地方で、殊に印度に於て最も盛である。我が國の季節風は冬は北風又は北西風で、アジア大陸の内部から吹いて來るが、夏は南風又は南東風で、太平洋から吹いて來る。

四 大氣中の水分

氣温が下ると、水蒸氣の一部は凝結して或は雲霧となつて空中に浮かび、或は雨雪等となつて地表に降る。雨量とは雨雪等の地表に降つた量をいふ。雨量は通例ミリメートルで計る。一ミリメートルの雨量は一平方メートルにつき一リットルである。



我が國の季節風

雨量は地勢森林・海流・気温・風等の影響により各地一様でない。世界で雨量の最も多い地方はヒマラヤ山脈の南東部からマレー諸島に至る一帯の地方で、最も少ない地方はサハラ沙漠である。

我が國は一般に雨量が多く、年雨量一千ミリメートル乃至三千ミリメートルであるが、樺太や朝鮮の一部には一千ミリメートルに達せぬところもある。最も雨量の多いのは臺灣の北部で、七千ミリメートルを超えることもある。

六七月の交、我が本州・四國・九州では、梅雨と稱する雨期があるのが普通である。この頃、支那の揚子江下流流域地方に發生し、連続的に我が國へ襲來する低氣壓があるが、恰も本州東方の太平洋上にある高氣壓に妨げられて東進することが出來ず、停滞するため、連日濕潤な天氣が続く。七月の中頃になると、こ

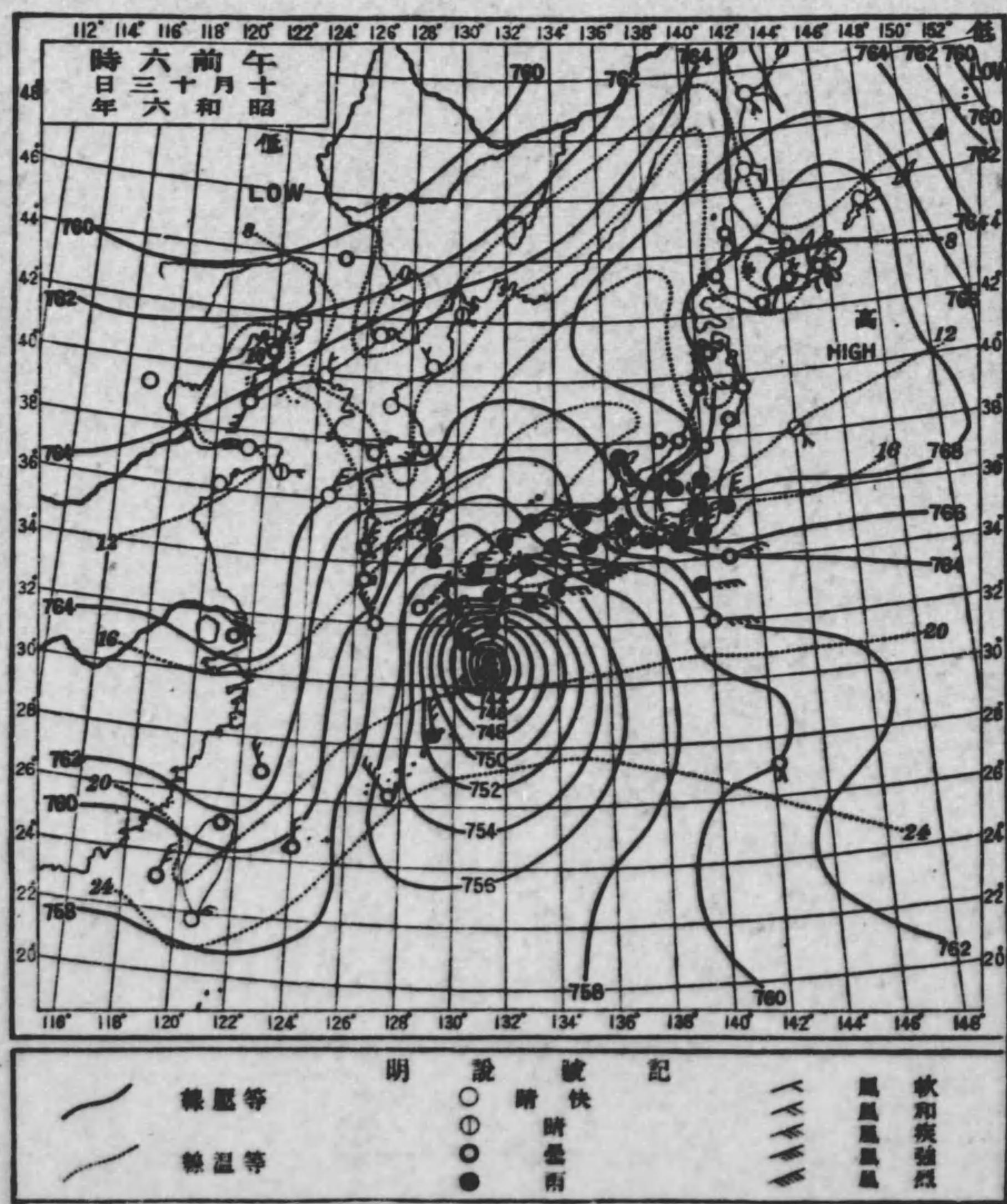
梅雨

の高氣壓は南の方へ移動し、随つて停滞してゐた低氣壓が東へ通過する

ので、天氣がよくなる。

五 天氣

気温・氣壓・風・晴・曇・雨等の情態を總稱して天氣といふ。天氣は時々刻々に變化するものである。同



天氣圖

じ時刻の各地の気温・気圧・風・雨等、即ち天氣の平均の情態を
に表したものを天氣圖といふ。天氣圖によつて、天氣を豫報す
ることが出来る。

六 氣候

各地に於ける気温・気圧・晴曇・風・雨等、即ち天氣の平均の情態を
氣候といふ。氣候の最も主要な要素は気温で、これに次ぐもの
は雨量である。氣候は気温によつて熱帯氣候・温帯氣候・寒帯氣
候に分たれ、雨量によつて濕潤氣候・乾燥氣候に分たれる。又海
洋性氣候・大陸性氣候に分つこともある。海洋性氣候といふの
は、季節によつて気温の差のあまり大きくない氣候をいひ、大
陸性氣候といふのは、その差の極めて甚だしいものをいふ。
熱帯又は温帯で濕潤な氣候を有する地方は農業に好く適し
てゐる。乾燥氣候の地方は牧畜業に適してゐる。我が國をはじ

我が國の 氣候

め、現今世界の文明國は概ね温帯地方にある。

我が國は海洋性の温帯氣候に屬してゐる。大陸の影響をも受
けるので、冬はかなり寒い地方もあるが、大體温暖で雨量が多
い。夏秋二季に於ける颱風及び冬季に於ける颶風は、共に我が
國の氣候と密接な關係をもつてゐる。又梅雨は我が國特有の
もので、これを利用して田植を行ふ地方が多いから、米作には
缺くべからざるものとなつてゐる。

我が國の氣候區は北日本區・中部日本區・南日本區及び南洋區
の四區に分つことが出来る。北日本區は樺太及び北海道の大
部分を含んでゐて、最も寒く、且雨が少い。中部日本區は主とし
て我が國の主要部、即ち北海道本島の南西部、本州・四國・九州及
び朝鮮を含むもので、一般に温和で雨が多し。中でも、太平洋方
面の地方は殊に温和で、夏季に雨が多く、日本海方面の地方は

冬季に雨雪が多い。南日本區は小笠原群島・琉球列島・臺灣を含んでゐて、温暖で雨が多い。南洋區は我が南洋群島を含むもので、熱帯にあるけれどもさほど暑くはない。滿洲は大陸性の氣候で、寒暑の差が甚だしく、夏はかなり暑い。冬は非常に寒い。一般に雨が少く、乾燥してゐる。

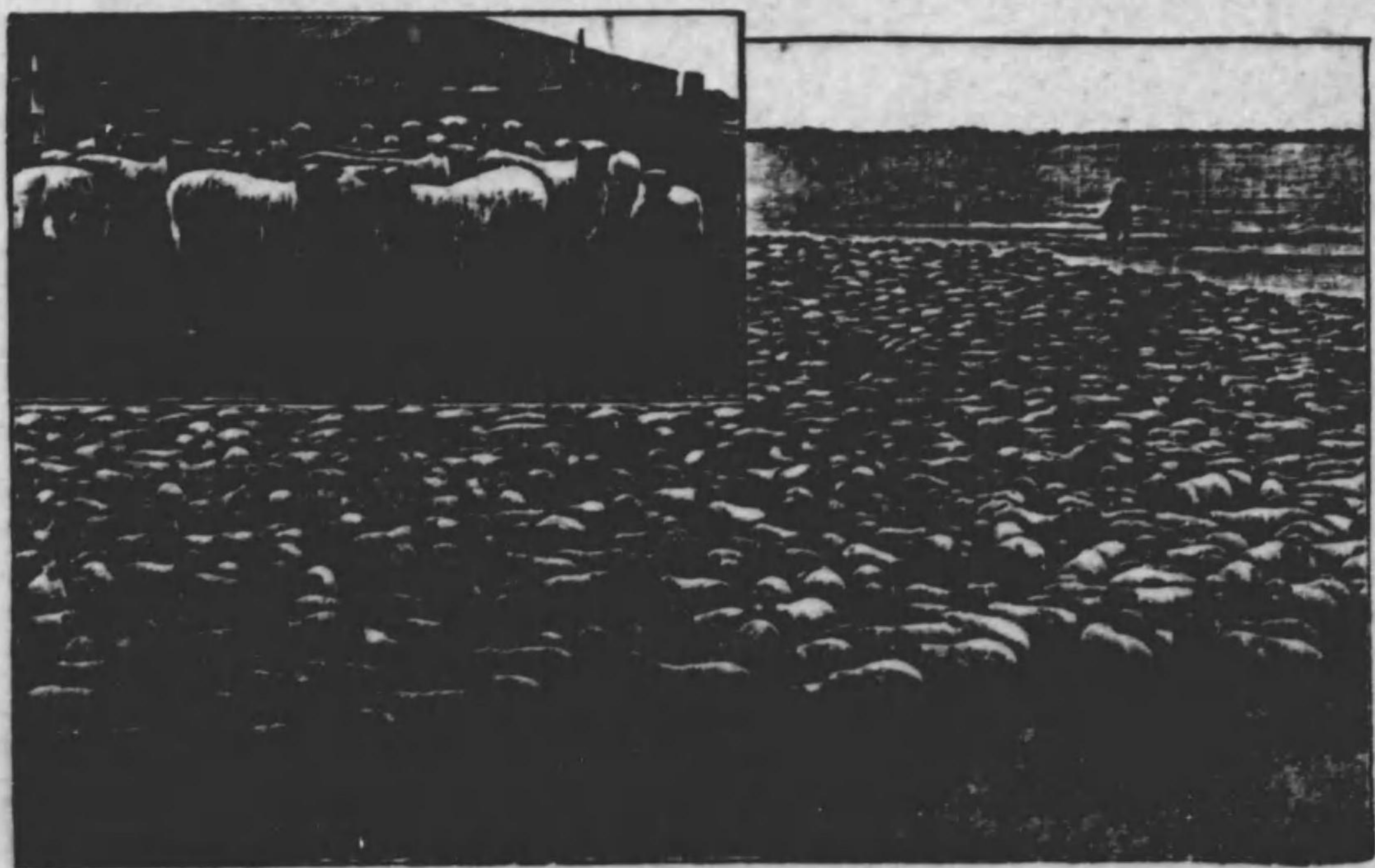
第五 生物の分布

生物は水中に棲むものと陸上に棲むものによつて、その種類が非常に異なつてゐる。又水中に棲むものは水の性質・深淺等によつて、陸上に棲むものは氣候・地勢等によつて、その生存地域の制限せられる場合が甚だ多い。人類の出現以來、文明の進歩に伴なつて、生物はその分布に變化を生じたものがある。即ち一方に於ては牛・馬・羊・豚・稻・麥・綿・果



カ ナ ダ の 小 麥 刈 取

樹・蔬菜等、人類の生活に有用な動植物は、人類に飼養又は栽培せられて繁殖を盛にし、又交通の進歩はその分布を廣めた。南北兩ア



オーストラリアの羊牧

メリカ洲及びオーストラリアに於ける有用動植物は、多くヨーロッパから移されたもので、その産額も非常に多い。又科學

の進歩は大規模の灌漑工事によつて、雨の少い不毛の地を沃野と化して、農作物の分布を擴大した。しかし、他方に於ては狼、獅子、虎、熊等の如く人類に捕殺せられ、或はその棲息地を奪はれて、次第にその數を減じ、或はその生存地域を縮少してゐるものもある。

一 植物の分布

熱帯地方はアフリカ洲やオーストラリア等にある。沙漠を除いては概して高温多湿で、植物の種類が頗る多く、且その生育も甚だ盛である。殊にアマゾン川の流域地方、アジア洲の南



熱帯の森林

東部地方、アフリカ洲の中部地方等には原始林が多い。しかし、一般に交通が不便であるから、利用されることは少い。有用植物にはゴム、椰子、チーク、マホガニー等の樹木がある。又處々に甘蔗、コーヒー、綿、稻等の農作物が栽培せられ、バナナ、パイナップル等の果樹も多い。



温帯地方は概して有用植物の主産地に當つてゐて、松、杉、檜等の建築用材に適する森林が温多く、又麥、稻、綿、茶、桑、果樹等の帶農作物の栽培が盛である。温の帶地方の中には、一年の中、乾燥季には不毛の地となり、降雨季には緑野に變ずる處がある。蒙古及び中アジアの草

原、南アメリカ洲の南部の草原等はその例である。寒帯地方は植物の種類が甚だ少く、その發育も亦良好でない。シベリヤ及びカナダ等の凍原では、夏季僅かに蘚苔類・地衣類が生ずるのみである。

二 動物の分布



動物は又氣候の影響を受け、且海洋・山岳或は食物等のために、その棲息地を限られるから、各地その種類は同じでない。例へば虎・ヤク。



マ + リ

孔雀等はアジア洲に、獅子・河馬・ジラフ等はアフリカ洲に、カンガル―エミー等はオーストラリヤに、コンドル・リマ・アルバカ等は南アメリカ洲に多い。概して熱帯地方には巨大なものや猛悪なものが棲息し、温帯地方には牛・馬・羊・豚・鶏等のやうな有用動物が多く飼養されてゐる。寒帯地方には動物の種類が少く、となかい・北極熊・ペンギン等が主なものである。

三 我が國に於ける生物の分布

我が國は氣候・地勢の變化に富むから、動植物の種類は甚だ多い。植物では北海道・樺太にと



い かな と

ど松・えぞ松から松等、本州・四國・九州及び臺灣の山地に松・杉・檜等、朝鮮にから松もみ等の森林が多い。又竹は殆ど全國に産す



南洋群島の椰子

琉球列島のはぶ、臺灣の水牛、朝鮮の虎等が、その地方特有のものである。

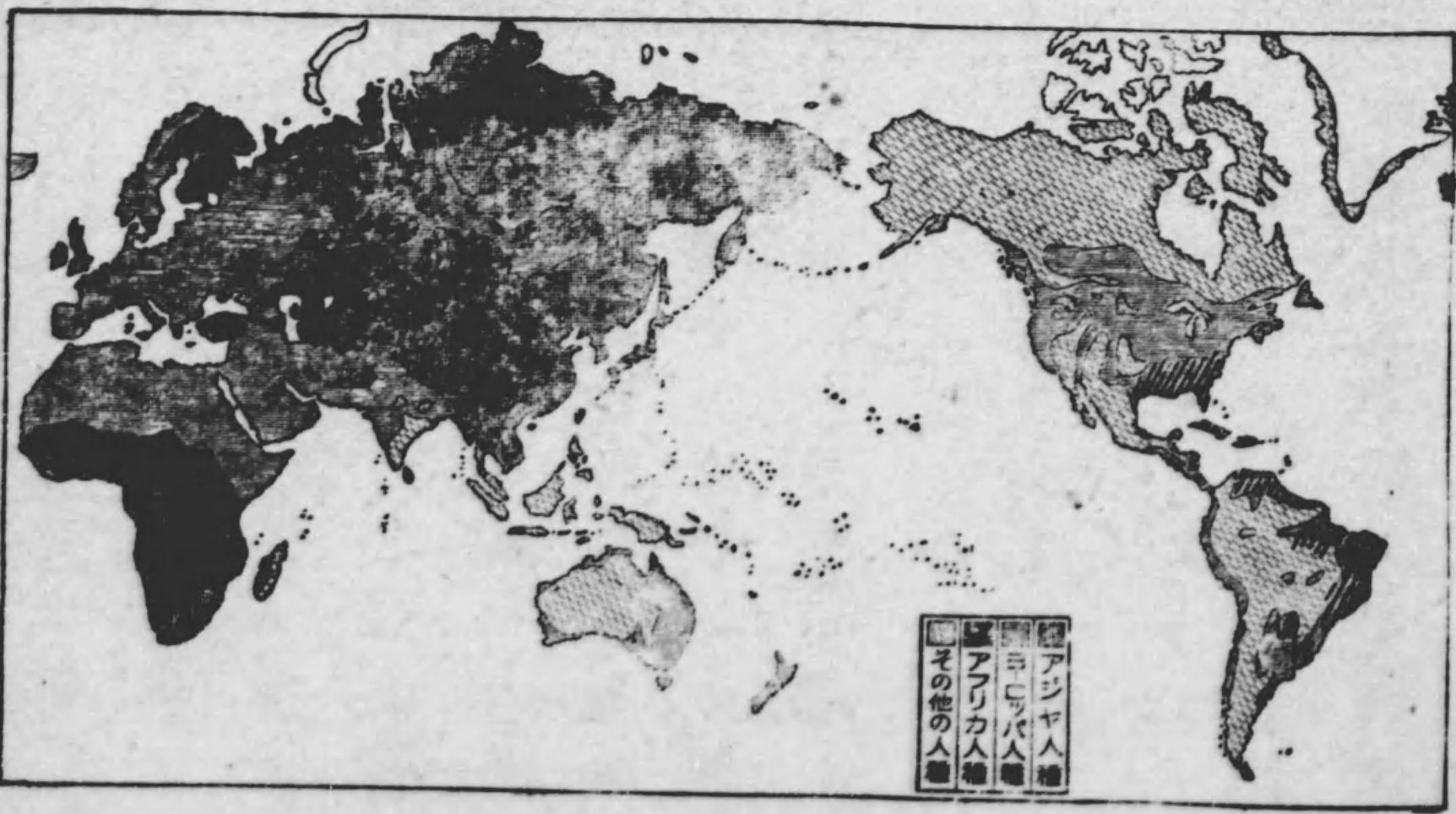
第六 人類

人類はその分布に於て氣候、地勢等の影響を受けるが、又智力によつて衣食住を改良し、交通機關を設ける等種々の工夫を

こらして、周圍の事情に適應することが出来るから、地球上殆ど到る處に住居し、今やその數二十一億を超えてゐる。

一 人種

人類はその容貌、體格等が、各地方によつて異なつてゐる。便宜上、これを大別してアジヤ人種、ヨーロッパ人種、アフリカ人種等とする。アジヤ人種は、その皮膚が概ね黄色であるから、一に黄色人種とも稱せられてゐる。その數は世界總人口の約三割で、主としてアジヤ



人種の分布

洲に住み、大和民族、支那民族、印度支那民族等に分れてゐて、數千年前既に文化が開けてゐた。

ヨーロッパ人種は、その皮膚が一般に白色であるから、一に白色人種とも稱せられ、その數は世界總人口の約半分を占めてゐる。この人種はもと主としてヨーロッパ洲に住み、ヨーロッパ洲以外ではアジア洲の南西部からアフリカ洲の北部に亙る地方に住居するに過ぎなかつたが、近世になつてから盛に世界の各地に移住し、今や南北兩アメリカ洲、オーストラリア等の主要部の殆ど全部をその住地と化してしまつた。その人種中、印度、メソポタミヤ、エジプト、ギリシヤ、ローマ等に住んでゐたものは早くから文化が開けて、今日の西洋文明の基礎をつくつた。

アフリカ人種は、概してその皮膚が黒色であるから、又黒色人

我が國の種族

種の名がある。その數は世界總人口の十分の一に足らず、主としてアフリカ洲の中部以南に住み、多くは野蠻であるが、南北兩アメリカ洲に住むものには、智識の進歩したものもある。その他、なほあまたの人種がある。中でも、マレー半島、マレー諸島等に住むマレー人種、南北兩アメリカ洲の處々に住むアメリカ人種等は、その主なものである。

我が國の住民は、殆ど皆アジア人種に屬し、その大部分は大和民族である。この外、臺灣には支那民族及びマレー人種に屬する土人があり、朝鮮には朝鮮人があり、北海道と樺太には少數のアイヌ人があり、南洋群島にはカナカ人、チモロ人があつて、各、その氣質、風俗等を異にしてゐるが、いづれも次第に大和民族特有の美風に同化せられつゝある。

二 人口

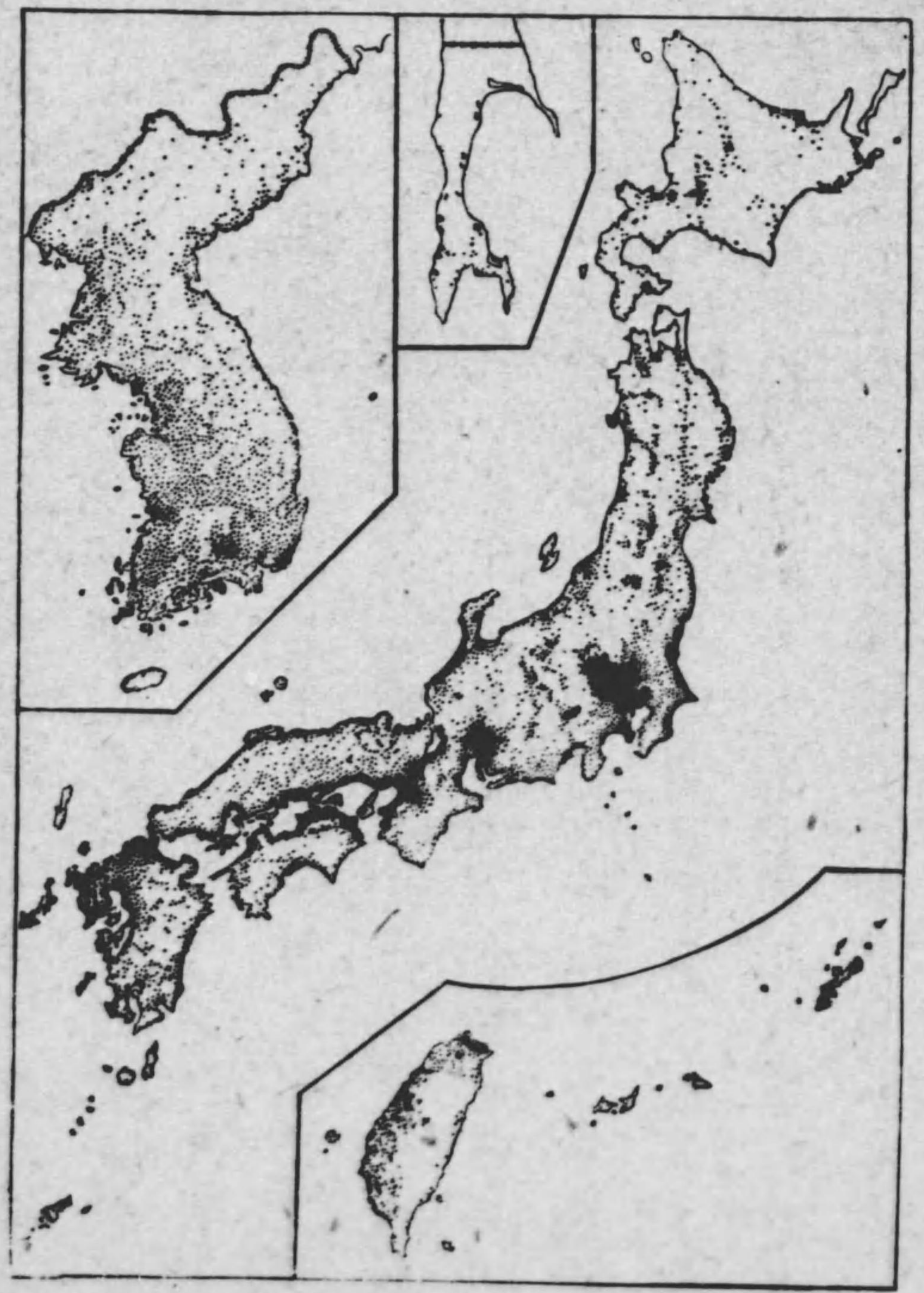


世界人口の密度

六大洲中人口が最も多いのはアジアで、その数十一億を超え、世界総人口の半ば以上を占めてゐる。最も少いのは大洋洲で、アジアの百分の一にも及ばない。世界人口の密度は一平方キロメートルにつき平均十六人で、ヨーロッパはその約三倍半に當り、ベルギー・オランダ・イギリス等の諸國は殊に稠密である。アジアの人口密度はヨーロッパに次いで大きく、世界平均密度の二倍に近いが、他の四洲はいづれも世界平均密

度に遠く及ばない。

人口の密度はその地方の氣候・地勢・産業・交通及び住民の歴史等に關係するもので、一般に温帯地方が最も大きく、熱帯地方がこれに次ぎ、寒帯地方が最も小さい。又平野及び海岸地帯の人口密度は山地・沙漠地帯より大きく、商工業地帯の人口



我が國の人口分布

我が國の人口

密度は農林・牧畜・漁業地帯より大きい。
 我が國の人口は約一億で、世界總人口の凡そ二十一分の一に當り、一平方キロメートルの平均人口は百四十九人で、世界人口平均密度の約十倍に近い。密度の最も大きい地方は關東平野・濃尾平野、近畿地方の諸平野、瀬戸内海の沿岸、九州の北部、臺灣の西部、朝鮮の西部・南部の諸平野等であつて、密度の最も小さい地方は樺太・北海道、臺灣の東部、朝鮮の北部等である。

三 言語

世界に行はれる言語の種類は頗る多い。各國には概ねそれぞれ獨特の國語があるが、數種の言語が並び行はれてゐる國もある。世界に於て最も廣く行はれる言語は英語で、イギリスの外、イギリス領の各地及びアメリカ合衆國等にも行はれ、又商業上の用語として、その他の諸國にも廣く用ひられてゐる。フ

ランス語はフランスの外、ベルギー・スイス等にも行はれ、又外交用語として用ひられてゐる。ドイツ語はドイツの外、スイス等にも行はれてゐる。又イスパニヤ語・支那語・インド語・ロシア語等は世界的の言語ではないが、使用する人が甚だ多い。一國內に數種の言語が行はれてゐることは、國民の團結を弱め、國家の統一上不便が多いから、國語の普及は國家の發展上缺くべからざることである。我が日本語は朝鮮・臺灣・南洋群島に普及し、更に滿洲・支那等にも及びつゝあるのは、誠に喜ぶべき現象である。

第七 國家

現今世界には大小凡そ七十の國家がある。これらの中で、主權が一人の君主にあるのを君主國といひ、國民全體にあるのを

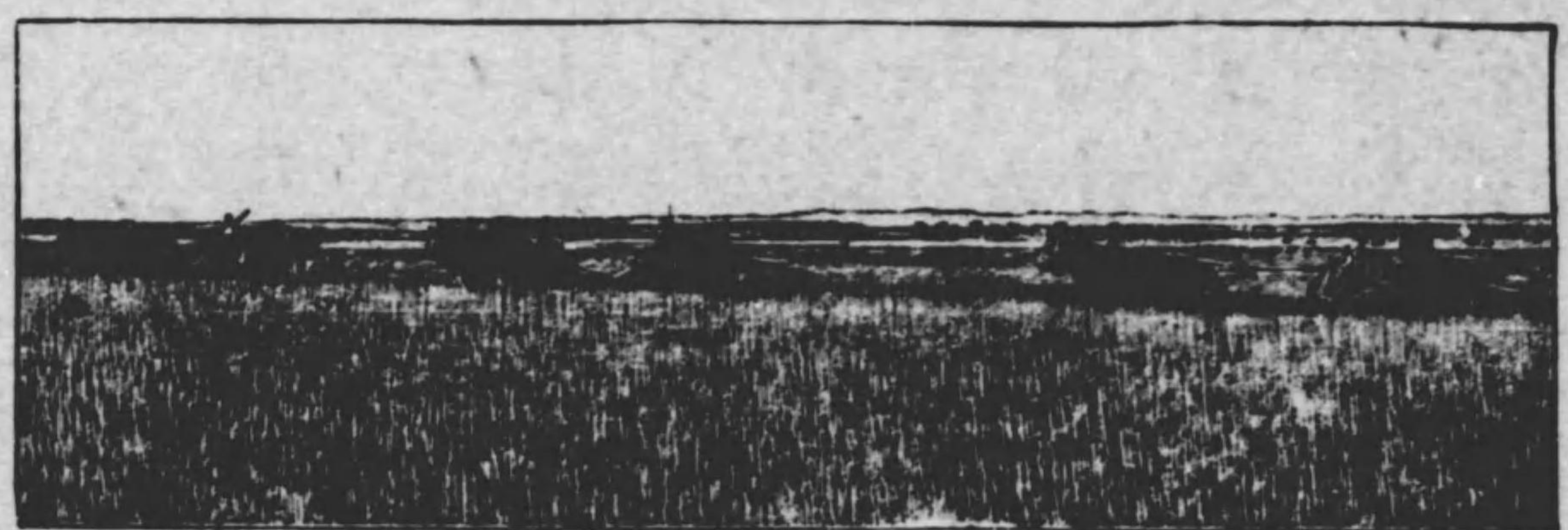
民主國といふ。我が國は萬世一系の天皇が統治し給ふ君主國であつて、國體の尊嚴なことは實に世界無比である。

一 主要國

現今世界の主要國と稱せられるものは、我が國及びドイツ・イタリヤ・アメリカ合衆國・イギリス・ロシア・フランス等である。これらの國の面積はイギリスの凡そ三千二百萬平方キロメートルを最大とし、ドイツの約六十四萬平方キロメートルを最小とする。又その人口はイギリスの約四億八千萬を最多とし、イタリヤの約五千萬を最少とする。我が國は面積約六十七萬五千平方キロメートル、人口約一億であつて、面積に於ては主要國中の第六位、人口に於ては第五位にある。

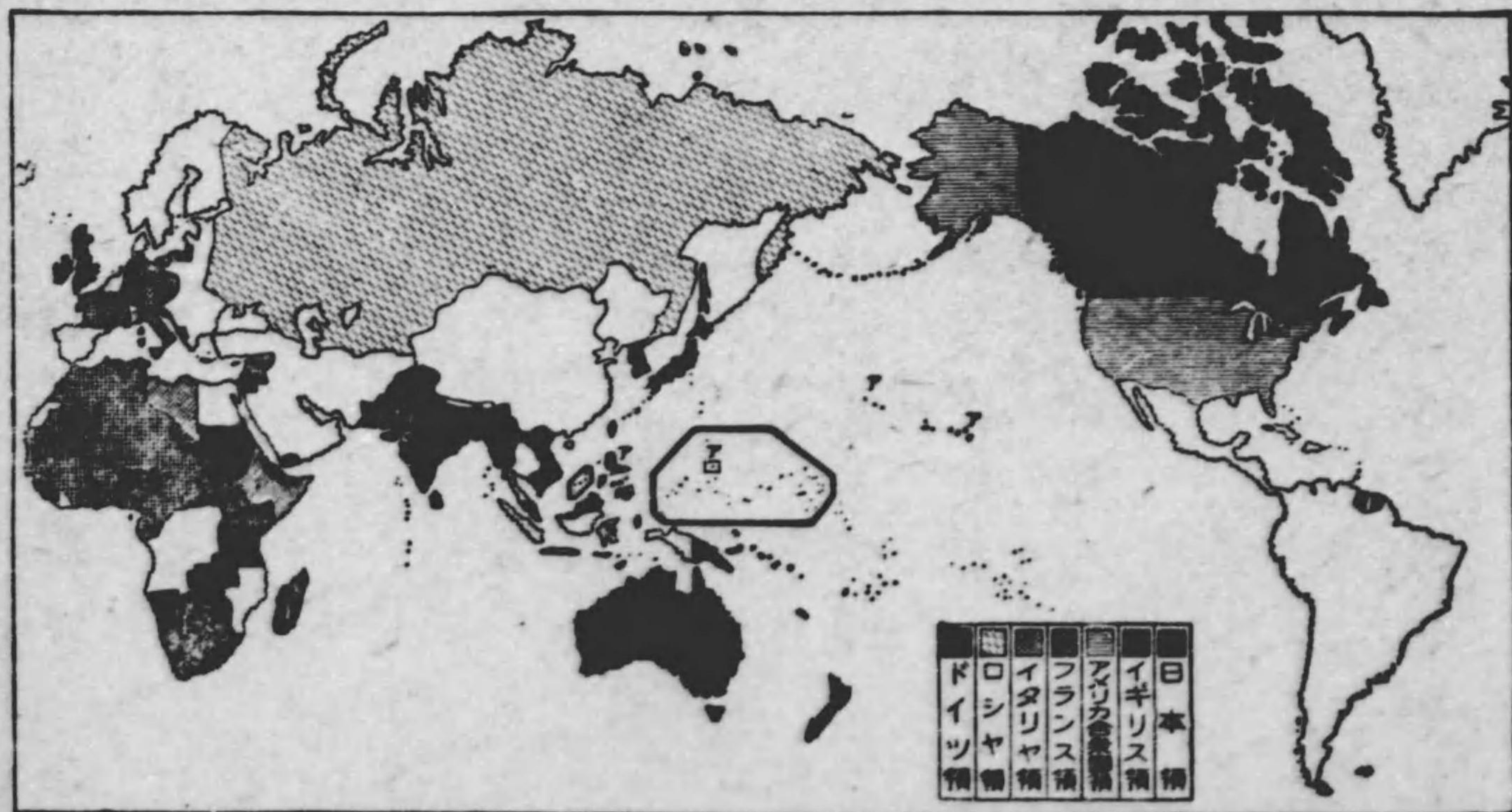
二 植民地

列國の中には廣大な植民地を有するものが少くない。中にも



(イギリス) 農業の地民植スリギイ

イギリスは各大陸に亙つて植民地をつくり、その面積は世界陸地の約四分の一に達してゐる。フランスはイギリスに次いで廣大な植民地を有し、ベルギー・イタリヤ・ポルトガル・オランダ等の諸國も、本國よりも廣大な植民地を有し

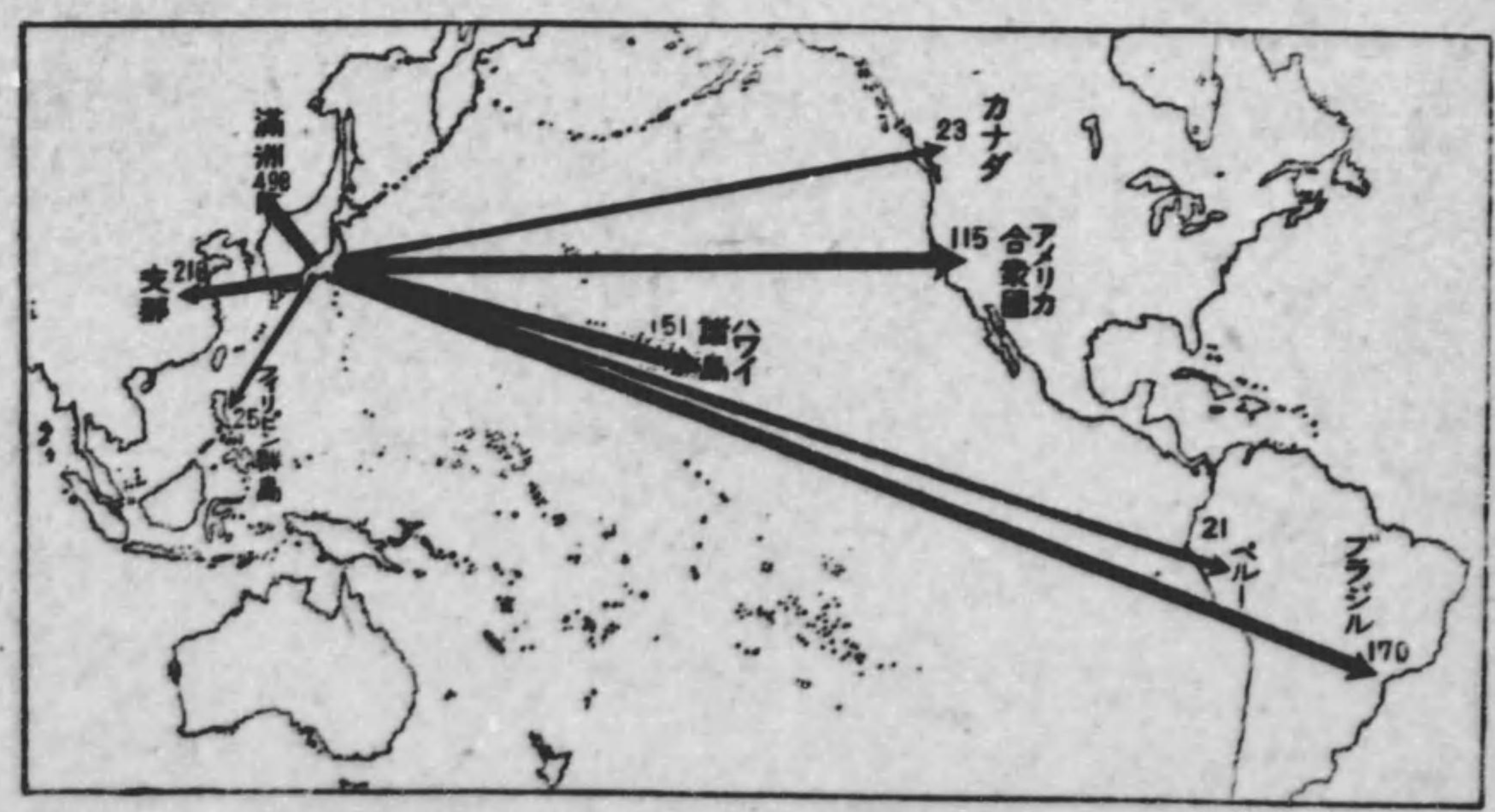


(委任統治地を含む) 主要國の領土

てゐる。我が國は久しく鎖國政策をとつてゐたため、移植民事業は列強に比べて甚だしく遅れてゐる。我が國は土地が狭小である上、人口も過多であるから、大いに海外へ發展しなくてはならないのにかゝはらず、現在海外に在留する内地人の數は僅かに約百萬に過ぎない。

三 租借地

條約上、一定の期間、他國領土の一部を借受けて、これに統治權を行ふものを租借地といふ。我が國の關東州に於ける、フランスの廣州灣に於ける、イギリスの九龍半島に於けるが如きは、この例である。



(千人単位) 數のそび及地留主の内地人

四 委任統治地

歐洲大戰の結果、ドイツ及びトルコの舊領土中列強の委任統治地となつたところがある。赤道以北の舊ドイツ領南洋が我が國の委任統治地となり、赤道以南の舊ドイツ領南洋がイギリス本國・オーストラリア等の委任統治地となつたのはこの例である。

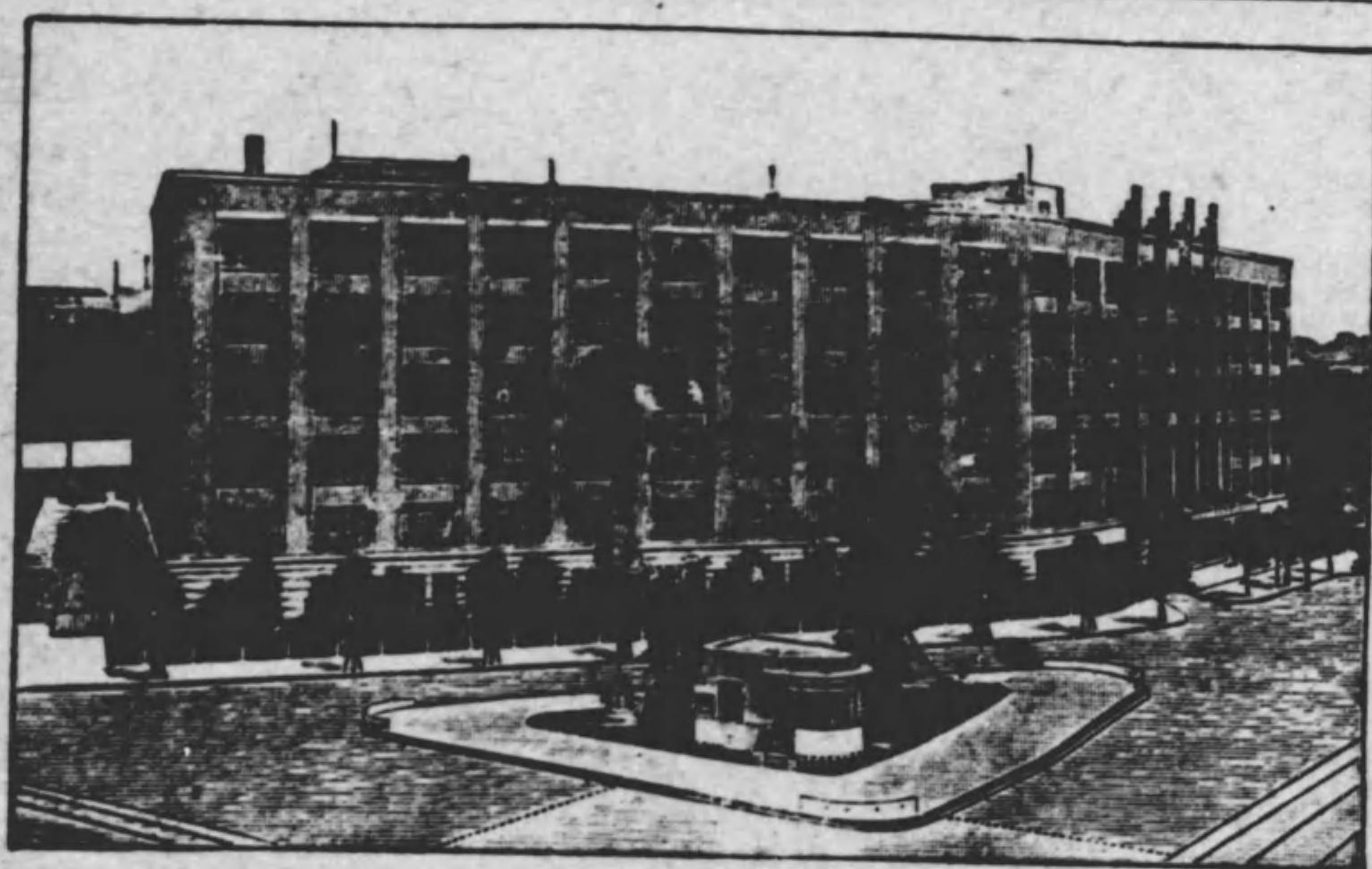
第八 政治

一 政體

國家を統治する機關を立法・司法・行政の三部に分ち、且國會を開いて國民の參政を許す憲法を定め、これによつて政治を行ふ政體を立憲政體といふ。かゝる統治機關の區別なく、主權者の獨裁專斷によるものを專制政體といふ。文明の進歩に伴な

我が國の政體

ひ列國は多く立憲政體を採用し、專制政體は極めて少くなつた。



文部省

明治天皇は深く國體の由つて來る所に鑑み給ひ、國民の幸福と國家の繁榮とを進め給はんとの大御心から、明治二十二年二月十一日、皇室典範及び大日本帝國憲法を制定し給ひ、次いで二十三年帝國議會を召集し給うた。爾來我が國は立憲政體の國となつた。

立法部は帝國議會で、帝國議會は貴族院と衆議院とから成り、法律案及び歳出・歳入の豫算を議定する。行政官廳は中央に外務・内務・大藏・陸軍

行政

立法

司法

海軍・司法・文部・農林・商工・遞信・鐵道・拓務・厚生の十三省がある。各省には大臣があつて各所管の事務を管掌する。又各省大臣は國務大臣として内閣を組織し、内閣總理大臣はその首班となつて行政各部の統一をはかる。

地方の中、本州・四國・九州の三府・四十三縣には各知事を置き、北海道廳・樺太廳・關東州廳・南洋廳には各長官を置き、朝鮮と臺灣とには各總督を置いて、それ／＼域内の行政を掌らしめる。府・縣はこれを市・町・村に分ち、府・縣・市・町・村は各地方團體として自治機關を備へてゐる。

裁判所は法律によつて訴訟を裁判し、登記の事務を司る。大審院・控訴院・地方裁判所・區裁判所の別がある。又朝鮮・臺灣には總督府に、關東州には關東州廳に、南洋群島には南洋廳に屬する裁判所がある。

二 外交

列國は通商・航海等に關して互に條約を結び、互に首府へ大使館又は公使館を置き、又特に重要な都會には領事館を置いてゐる。現今我が國と條約を結ぶものは四十餘國に達し、その中ドイツ・イタリヤ・イギリス・フランス・ベルギー・ロシヤ・トルコ・アメリカ合衆國・ブラジル・滿洲・支那等は我が國と大使の交換をなしてゐる。

三 軍備

軍備は國家を防衛し、國權を擁護する上に缺くべからざるものであるから、列國は各兵力の充實、軍器の發明・改良・整備に努めてゐる。

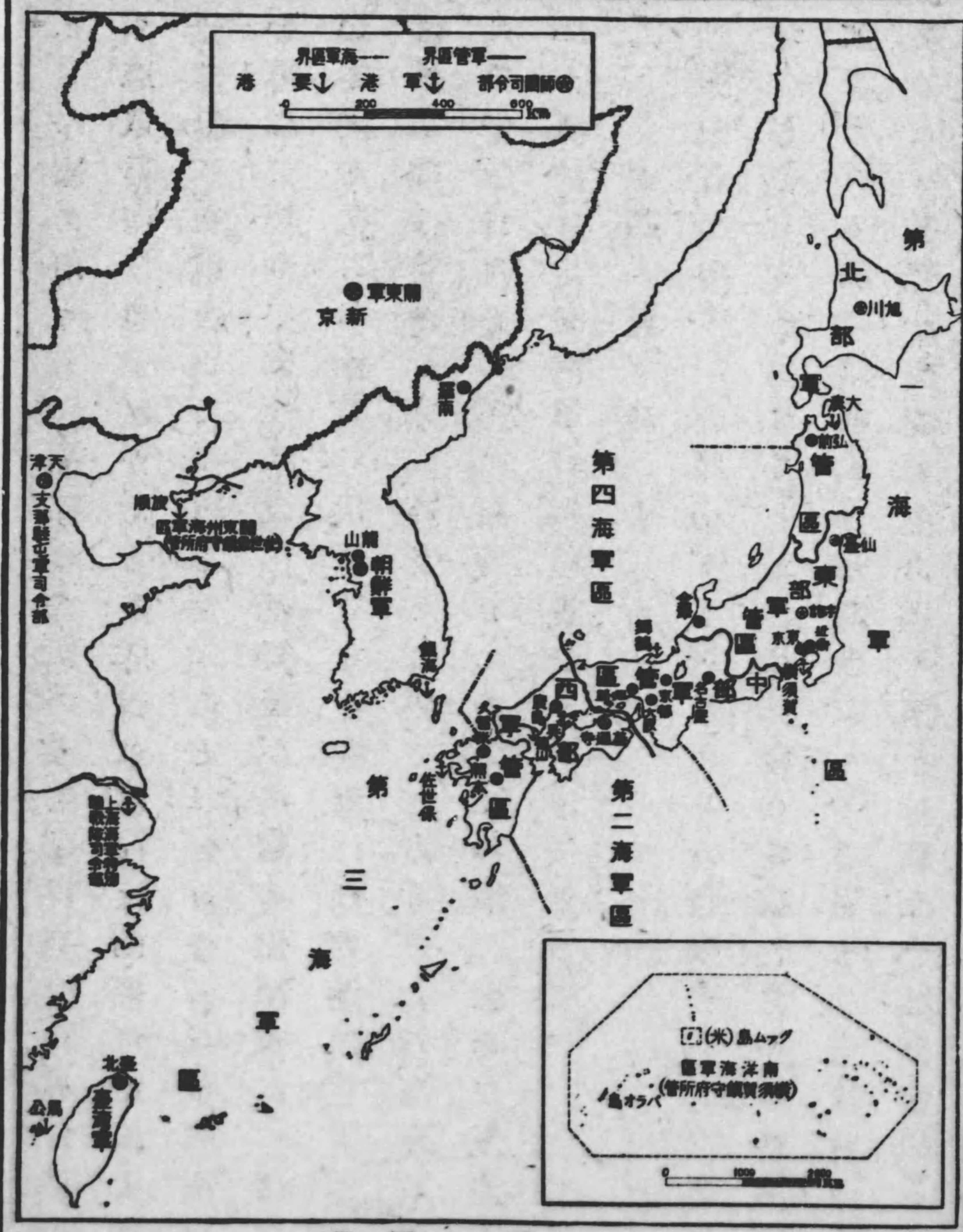
現今軍備の優勢な國は、我が國及びドイツ・ロシヤ・アメリカ合衆國・イタリヤ・イギリス等である。

我が國の軍備

天皇は大元帥として陸海軍を統率し給ひ、國民たる男子は悉く兵役に服するの義務がある。兵役を常備・後備・補充・國民の四種に分け、常備を更に現役と豫備役に分ける。

陸軍には東部・中部・西部・北部・朝鮮及び臺灣の六軍があつて、其の軍司令部は夫、東京・大阪・福岡・札幌・京城及び臺北に置かれてある。軍司令官は師團及び其の他の部隊を指揮して、國土防衛の任に當つてゐる。特に東部軍には禁闕守衛のために近衛師團がある。内地の各軍は軍管區を有し、軍管區は數箇の師管に、師管は又概ね府縣を單位とする聯隊區に分たれてゐる。この外、飛行集團があり、軍事上の重要地點には要塞がある。又滿洲國には關東軍があつて日滿共同防衛の本義に則り、其の防衛に當つてゐる。

海軍には約三十萬噸の主力艦と四十餘萬噸の補助艦艇とが



我が國の軍備

ある。全國の海岸及び海面は四つの海軍區に分たれ、外に關東州海軍區・南洋海軍區がある。第一海軍區には横須賀軍港・大湊要港、第二海軍區には吳軍港、第三海軍區には佐世保軍港・鎮海要港・馬公要港、第四海軍區には舞鶴軍港、關東州海軍區には旅順要港がある。各軍港には鎮守府を、要港には要港部を置く。なほ航空機は艦隊や陸上航空隊に屬してゐる。この外、在外本邦人の生命財産や權益の擁護のためには各地に艦艇が派遣され、上海には上海海軍特別陸戰隊を置いてゐる。

四 財政

列國中、歳出の多いのはイギリス・アメリカ合衆國・ドイツ・フランス等である。歳出は主として国防・交通・産業・教育等の費用に當てられる。歳入は歳出と相釣合ふもので、租税及び政府の經營に係る事業の収益その他を財源とし、なほ不足を告げる時

は國債を募集してこれに當てることがある。

第九 教育・神社・宗教

一 教育

教育は國民の智徳を増進し、人格を陶冶することを目的とするもので、その制度及び施設の良否は國運の盛衰に重大な關係がある。

列國中教育の著しく進歩してゐる國は我が國、ドイツ、イギリス、フランス及びアメリカ合衆國等である。

我が國は近來益々教育の進歩普及に力を盡くしてゐるが、特に初等教育の普及は著しく、全國到る處に國民學校を設けて、約一千百萬の兒童を教養し、學齡兒童の就學率の高いことは世

界有數である。又處々に中學校、女學校があつて、高等普通教育もよく整ひ、その他各種の實業學校、青年學校もある。又國民學校、中等學校の教師を養成する特別の學校も設けられてゐる。東京、京都、九州、東北、北海道、大阪、名古屋、京城、臺北の各帝國大學、その他官公私立の大學及び各種の専門學校を設けて高等専門の學術・技藝を授けてゐる。又陸海軍にはそれ／＼特別の學校がある。なほ學校以外に於ける民衆教育のため、各種の團體



東京帝國大學

訓練所等があつて、社會教育の施設も漸次完備して來た。

二 神社

我が國には古來皇室の御先祖を始め奉り、氏族の先祖その他國家に功勞があつた人々を神として祀り、永くその徳に報い、これを崇敬する美風がある。神社には天照大神を祀り奉る伊勢の皇大神宮をはじめ、官幣社・國幣社・府縣社・郷社・村社・無格社があつて、その數十一萬餘に達してゐる。我が國民たるものは信教の如何を問はず、神社に參詣して敬神・崇祖の念を養はねばならぬ。

三 宗教

世界に行はれる宗教は種々あるが、その主なものは佛教・キリスト教・マホメット教等であつて、いづれもアジア洲に起つたものである。佛教は二千四百餘年前、印度に起つたものであるが、

現今印度には殆ど行はれないで、我が國をはじめ、支那・印度支那等の諸地方に盛である。キリスト教は千九百餘年前、パレスティンに起つたもので、主としてヨーロッパ人種の居住する諸地方に行はれてゐる。マホメット教は約千三百年前、アラビヤに起つたもので、アジア洲の南部からアフリカ洲の北部に亘つて行はれてゐる。その外、印度地方に行はれる印度教、ユダヤ人の信ずるユダヤ教等があり、又チベット・蒙古等には佛教の一派であるラマ教、支那には儒教・道教等が行はれてゐる。我が國には神道・佛教・キリスト教等が行はれ、いづれも多く、宗派に分れてゐる。神道には天理教・大社教・御嶽教・神理教・神道大教・金光教等の十餘派があり、佛教には眞宗・眞言宗・曹洞宗・浄土宗・日蓮宗・臨濟宗・天台宗等の十餘宗があつて、寺院の數は約七萬に及ぶ。又キリスト教の會堂も各地にある。

第十 聚落

一 聚落の發達

聚落

人類は社會生活を營む特性をもつてゐるので、通常その住居は相集つて大小の聚落を形成してゐる。その簡單なものを村落といひ、村落の發達したものが都市である。産業の盛な地方や交通の便利な地方には人口が次第に増加し、随つて聚落も發達する。

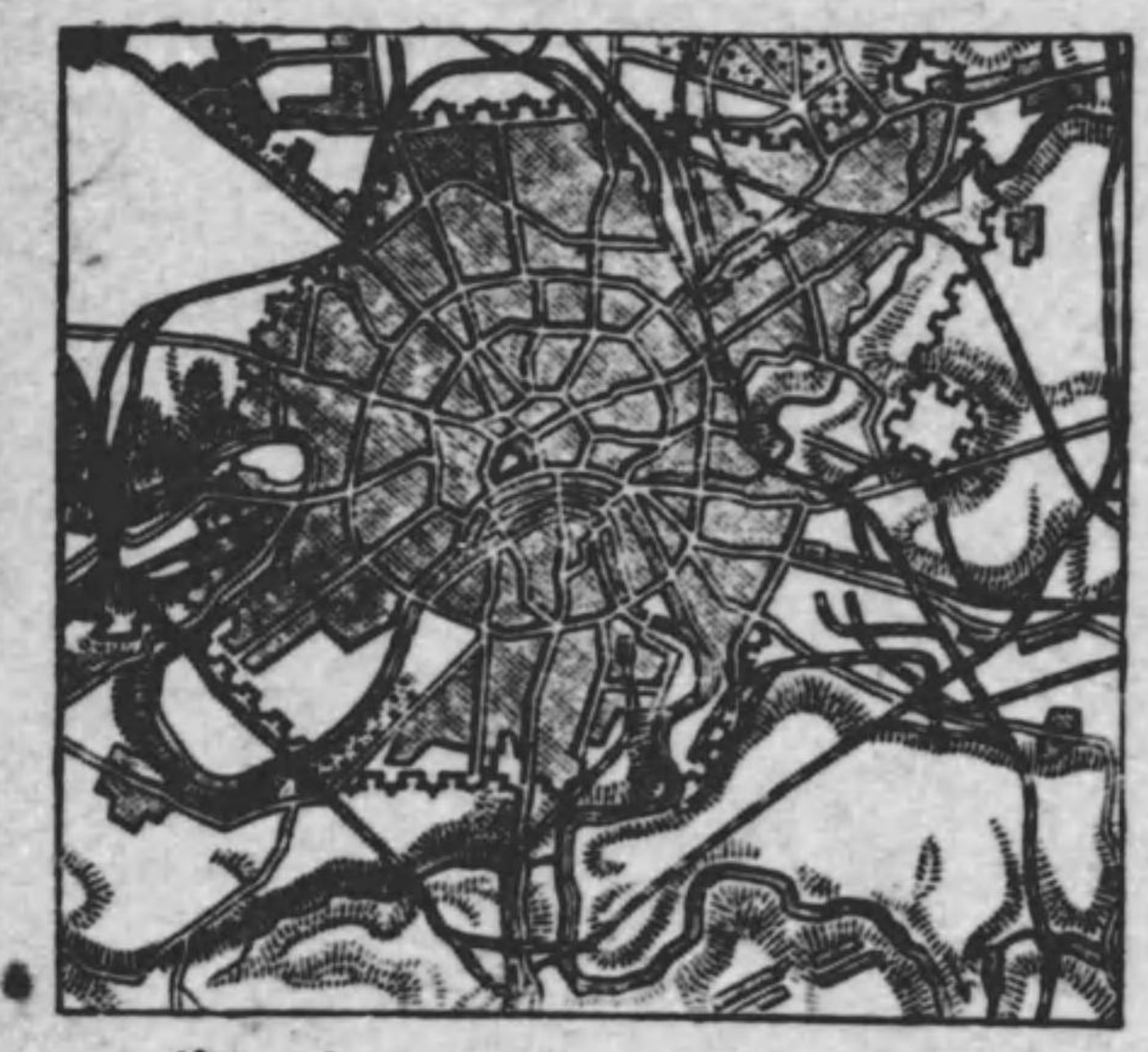
都市は村落の自然に發達・膨脹したものであるが、種々の人為的設備が施されて始めて出來たものもあり、又これら兩方の原因によつて出來たものもある。

先づ地方的市場を中心として都市に發達するものがある。市場はその地方の經濟生活の中心地として、住民に必要な物資

都市發達の諸原因

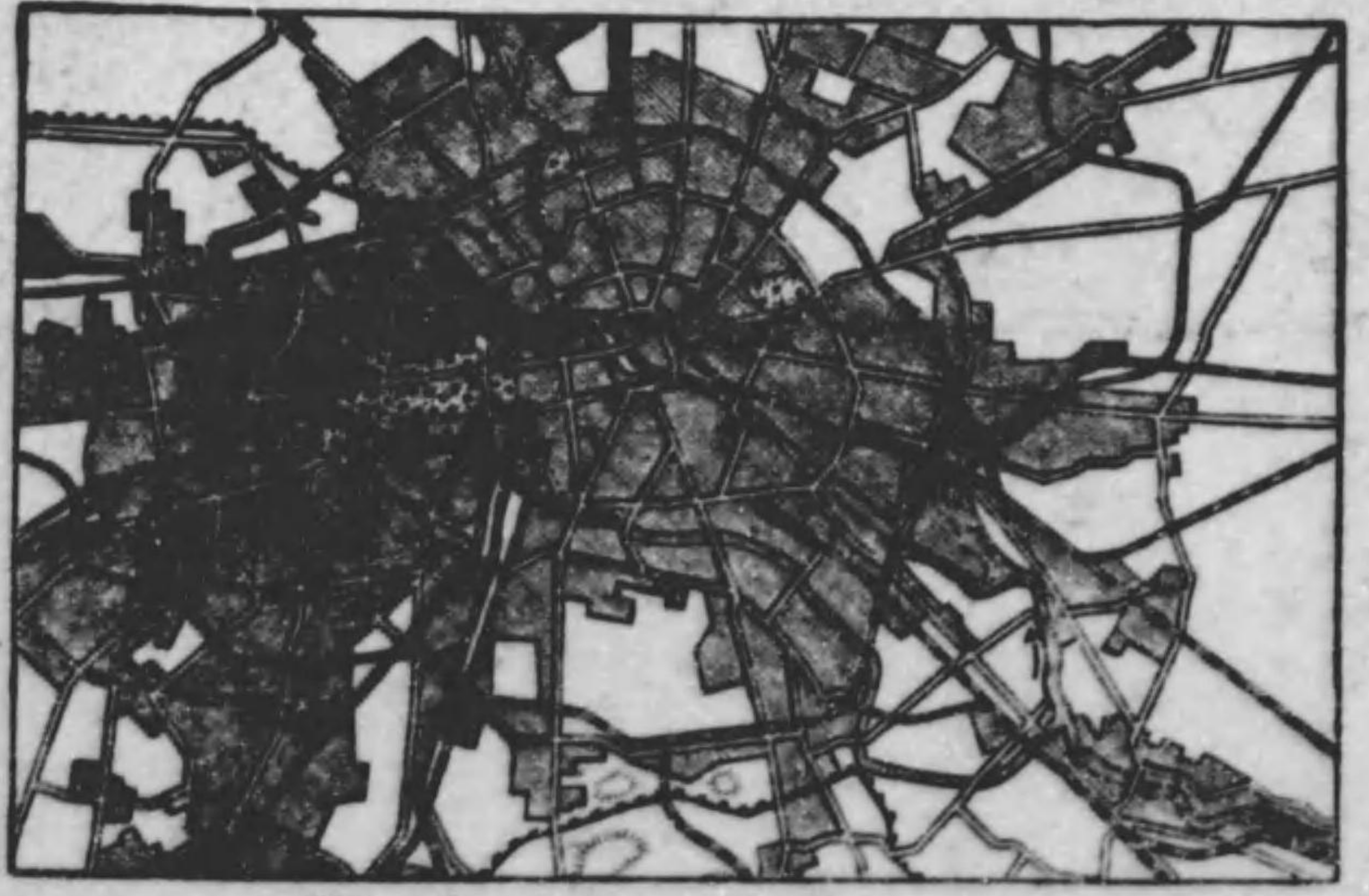
を供給し、その地方の生産品を集散する處であるから、自然に人家が集合して都市となるのである。かゝる都市の發達したものが大商業都市となる。

交通も都市發達の重要な原因となる。即ち陸上の交通路たる鐵道・道路の要地、水陸連絡の要地たる港などは都市の發達に都合がよい。又工業は都市の發生に密接な關係があつて、工業地帯には都市が出來易い。



モスコの市の街

この外、政治・軍事・宗教・學術等の中心地や、鑛山・温泉・名勝・保養地等にも、都市が出來る場合が多い。さうして大都市の發生にはこ

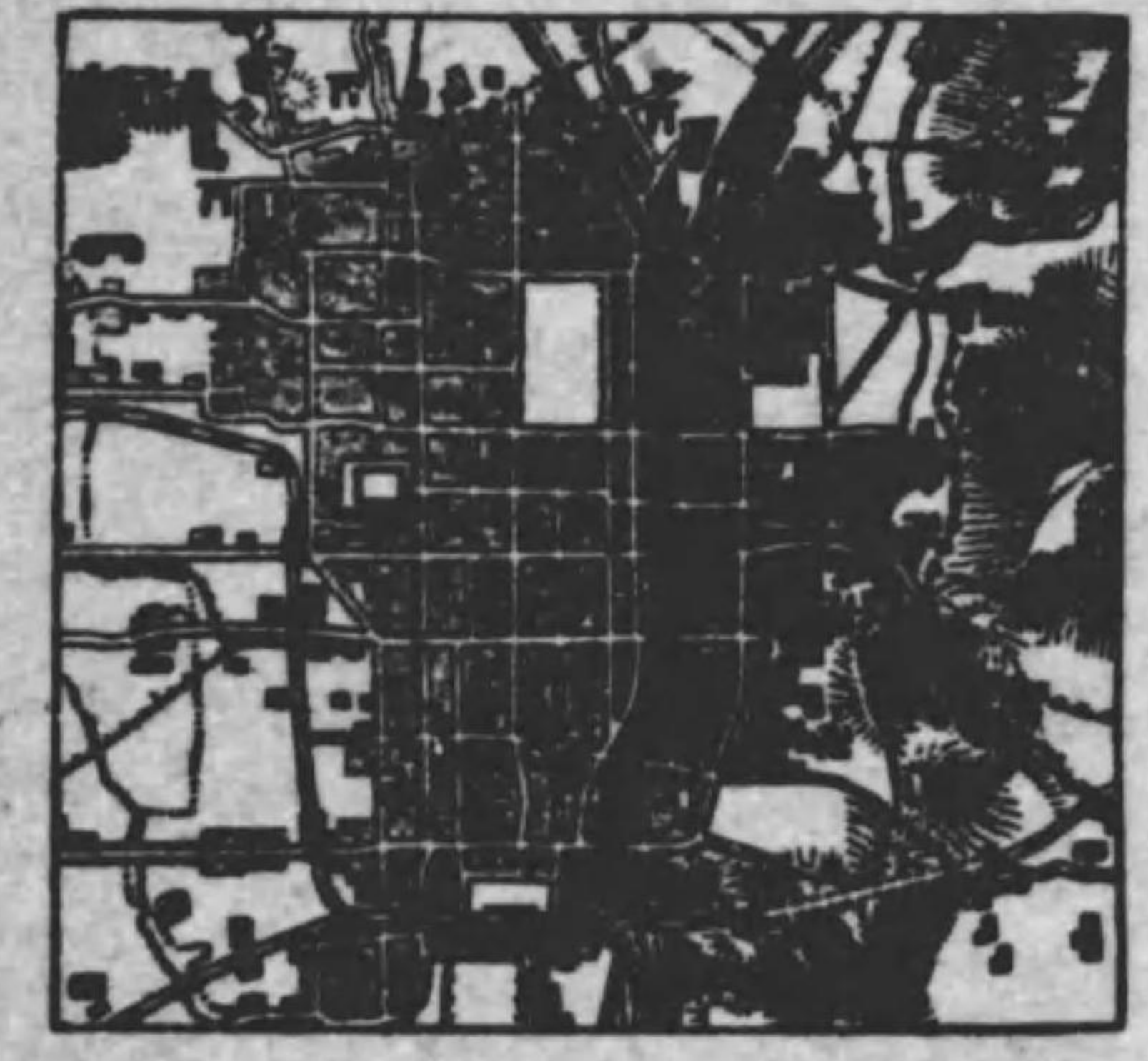


ベルリンの市の街

都市の形態

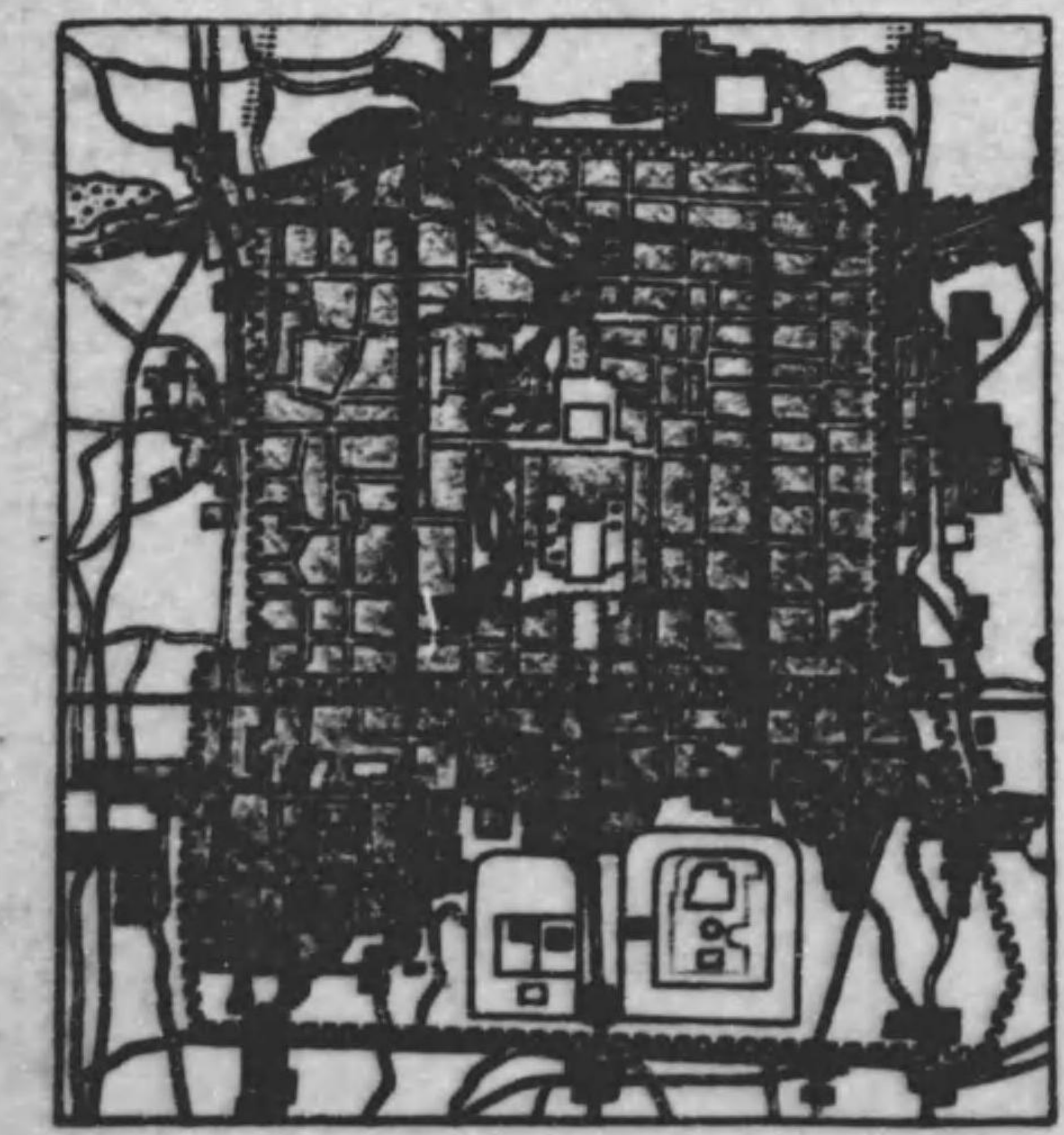
これらの諸原因の幾つかが相結合してゐる事が多い。我が國の主要な都市は封建時代に諸侯の居城地であつたいはゆる城下町が今日或は地方廳の所在地となり或は陸上海上の交通の要地として或は又商工業の中心地等となつて發達したものが最も多い。

都市の形は自然のままの發達の姿を示してゐる場合もあるが又一定の都市計畫に基づいて設計されたものもある。東京やロンドンは一部分は計畫によつて



京都市の街市

造られたものもあるが大部分は自然に發達したものであるから全體的に見て街路の排列が



北の京の街市

不規則である。これに反してパリ・モスコ・ベルリン・大連等では街路が或地點を中心としてそれから放射狀に走つてをり、京都・札幌・北京・ニューヨーク・シカゴ等の街路は規則正しく直交してゐる。

二 都市と村落

一國內に於ける都市や村落の多少は住民の生業、文化の程度等と密接な關係がある。一般に農牧國には村落が多く、商工業國には都市が多い。近時、交通機關の發達と商工業の發展と共に、世界を通じて人口の都市集中の現象が著しく、殊に大都市は益、膨脹する。しかし又一方には各種の工業に對する自然的條件、原料産地との關係や、交通衛生その他種々の條件のため、に工場を都市でない處に設ける傾向、即ち工場の地方分散の傾向もある。

第十一 産業

産業は國を富まし、國民の生活を豊かにする基であるから、各國は競つてその振興に意を注ぎ、力を盡くしてゐる。産業には種類が多く、地勢、氣候、天産物の相違、住民の素質等によつて、各地その趣を異にしてゐる。

一 農業附養蠶業

農業は風土の影響を受けることが多いから、作物の種類、品質及び收穫の量は、各地で異なつてゐる。米はアジア洲の主要農産物で、住



支那の水田耕作

米

小麥

民の大部分がこれを主食とする。米は高温多濕の地方に多く産し、印度、支那、我が國、印度支那、オランダ領東印度等を含む季節風帯は、世界に於けるその主産地である。小麥は米と共に世界に於て最も多數の人口を養ふ主要食料である。小麥は氣温に對する適應性が強く、その産地の分布は殆ど全世界に亘つてゐるが、たゞあまり濕氣の多い地方には適しない。ヨーロッパ洲はその産額が最も多いが、人口が多く、且住民の大部分が小麥を主食とするため、な



世界小麥の産地 (昭和二十年) 産額の比較

ほ不足をつけ、他洲から多量の輸入を仰いでゐる。國別ではロシアとアメリカ合衆國が世界の小麦の二大産地で、支那、印度がこれに次いでゐる。なほイタリヤ、フランス等も主要産地で

綿

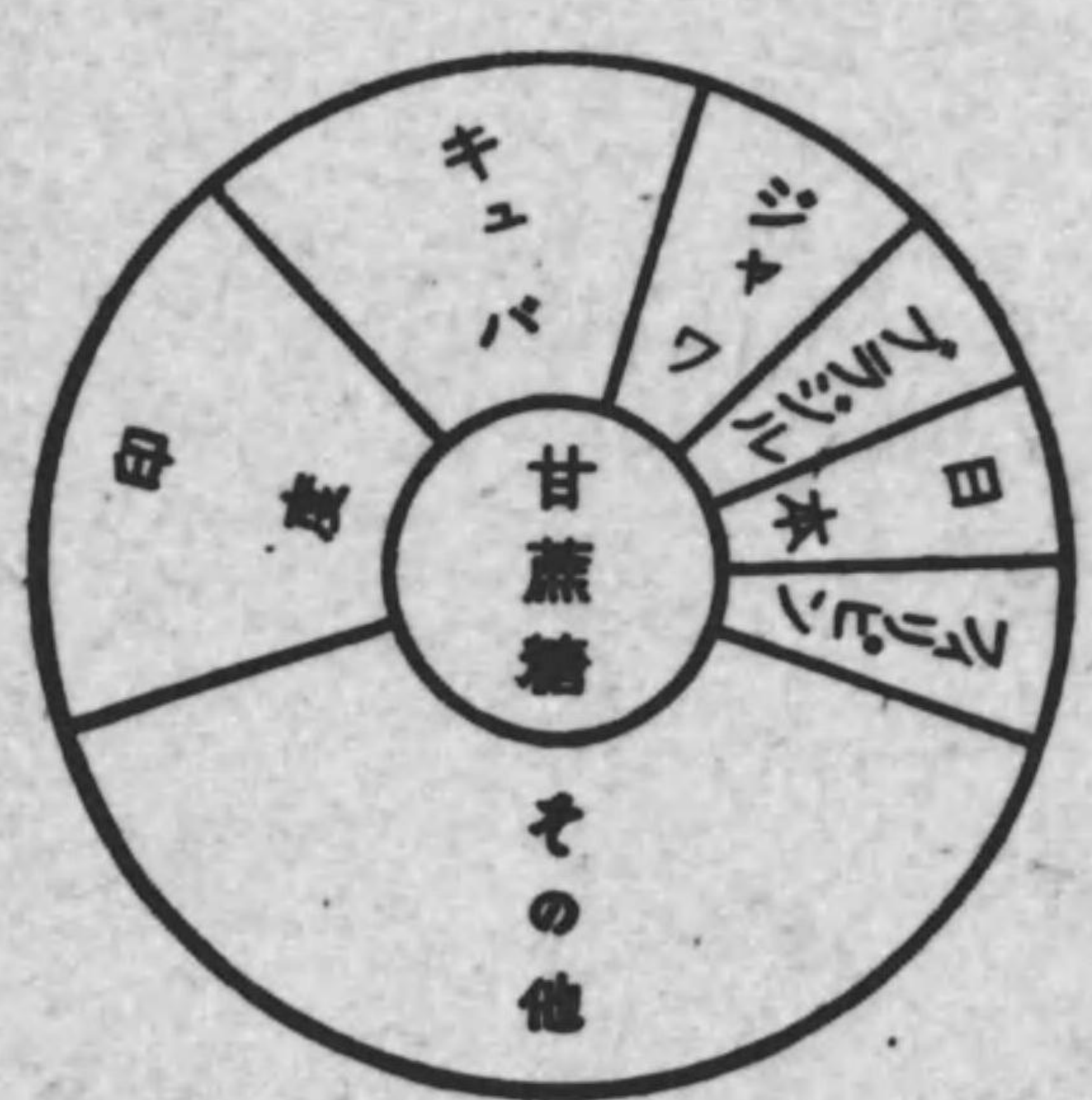
ある。小麥を輸出する主要國はアメリカ合衆國・カナダ・印度・アルゼンチン・オーストラリアで、主としてヨーロッパ諸國へ輸出する。ロシアからも亦多く西部ヨーロッパ諸國へ輸出される。我が國では近年小麥の耕作が盛になり、その産額も非常に増加してきた。

綿は温暖な地方に産し、衣服の原料として最も廣く利用されてゐる。アメリカ合衆國はその産額が最も多く、世界總産額の半を出し、主産地は國の南東部である。これに次ぐものは印度で、デカン高原がその主産地である。又ロシア・支那・エジプト等にも多く産する。我が國では、嘗ては國內の綿で自給されてゐたが、綿絲紡績工業が勃興すると共に、原料の綿はこれを輸入に仰ぐやうになつたので、今日では國內栽培は極めて僅少となり、原料綿は殆どすべてこれをアメリカ合衆國・印度等から

砂糖

輸入してゐる。

砂糖には甘蔗糖と甜菜糖との二種類がある。甘蔗は雨の多い熱帯の氣候に適し、印度・キューバ・ジャワ・ブラジル、我が國、フィリピンはその主産地である。甜菜は温帯に多く、ヨーロッパを主産地とし、ドイツに最も多く、ロシア・フランスがこ



世界の甘蔗糖産地の比較 (昭和二十年)



甘蔗の收穫

我が國では臺灣に甘蔗の栽培が盛であるので、砂糖は近年自給自足し得る

茶
！
ココア

やうになつた。しかし一方又海外から粗糖を輸入し、これを精製して再び輸出してゐる。

茶はアジアの季節風帯によく適し、印度を第一として、オランダ領東印度、我が國、支那等にも多量に産する。

コーヒーとココアとは共に熱帯産物である。コーヒーは南アメリカ洲が主産地であつて、



集採のアココ

中でもブラジルは世界總産額の過半を出してゐる。ココアはアフリカ洲が主産地である。



燥乾の一ヒーコ

養蠶業

我が國の農業

養蠶業の最も盛なのは東部アジアで、生絲の産額では我が國が世界第一である。支那は我が國に次ぐ養蠶國で、これに次ぐのはイタリヤである。我が國は氣候・地味が農業に適してゐるから農業は古來大いに開け、國內の重要産業となつてゐる。殊に近年耕作の方法が著しく進歩したので、農産物の收穫も随つて増加するに至つた。農産物の主なものは米・麥・豆・甘藷・蔬菜等である。なほ甘蔗・茶・煙草・果物等の産額も少



摘

茶

るから農業は古來大いに開け、國內の重要産業となつてゐる。殊に近年耕作の方法が著しく進歩したので、農産物の收穫も随つて増加するに至つた。農産物の主なものは米・麥・豆・甘藷・蔬菜等である。なほ甘蔗・茶・煙草・果物等の産額も少



畑草煙

くない。

我が國は山地が多く、平野が少く、耕地は總面積の約六分の一に過ぎない。しかも内地戸數の約半數は農家であるから、農家一戸當りの耕地面積は諸外國に比して遙かに少い。さうして諸外國に見るやうな機械力や家畜を利用する事が甚だ少く、その經營は主として小農法によつてゐるが、その耕作が極めて集約的であるから、農産物の産額は耕地面積に對して甚だ多い。しかし我が國は人口が稠密であるから、農産物で海外に輸出されるものは少く、大部分は國內で消費されるのである。我が國の工業原料品として最も重要な綿の如きは、専ら外國から輸入を仰いでゐる。たゞ生絲は國內で消費される額はその一部分に過ぎず、大部分はアメリカ合衆國に輸出され、我が國輸出品中の重要な位置を占めてゐる。

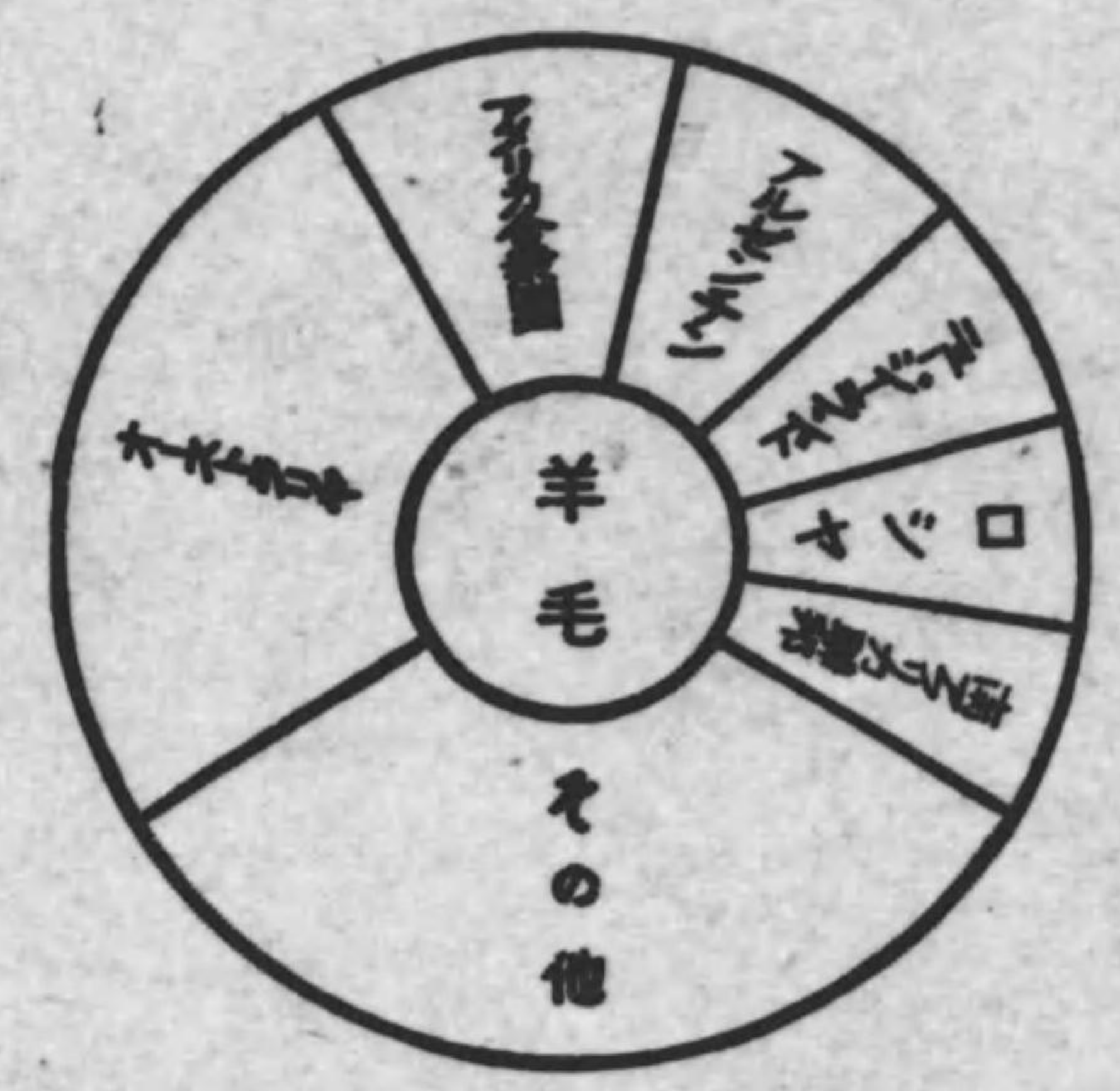
高地二

羊

二 牧畜業

牧畜業は農業と同じく廣く世界各地に行はれる。原野の廣い地方では放牧或は遊牧が行はれ、農業地域では多く畜舎で飼育せられてゐる。

羊はオーストラリヤが第一で、アメリカ合衆國・アルゼンチン・



世界の羊毛産地の産額比較 (昭和二十年)

ニュージーランド・ロシア・南アフリカ聯邦がこれに次いでゐる。羊毛は衣服原料として大切なことは、綿と相匹敵してゐる。

牛は印度に最も多く、アメリカ合衆國・ロシアがこれに次ぎ、馬はロシア・アメリカ合衆國・アルゼンチン等を主産地とする。豚は支那が第一で、アメリカ合衆國・ドイツ・ブラジル・ロシア等にも多い。

牛・馬・豚等

我が國の
牧畜業

なほこれらの家畜からとれる毛・肉・皮・乳製品等の産額も多い。我が國では耕作・運搬用としての牛・馬、食用としての豚、食用・搾乳用としての牛の飼育が行はれてゐるが、牧畜は一般に盛とはいへない。殊に羊の牧畜は振るはない。しかし近年、羊毛の需要が益増加する傾向に鑑み、羊の飼育が奨励せられてゐるか、羊の頭數も次第に増加するであらう。養鶏は農家の副業として廣く各地に行はれてゐる。

三 林業

世界の林業

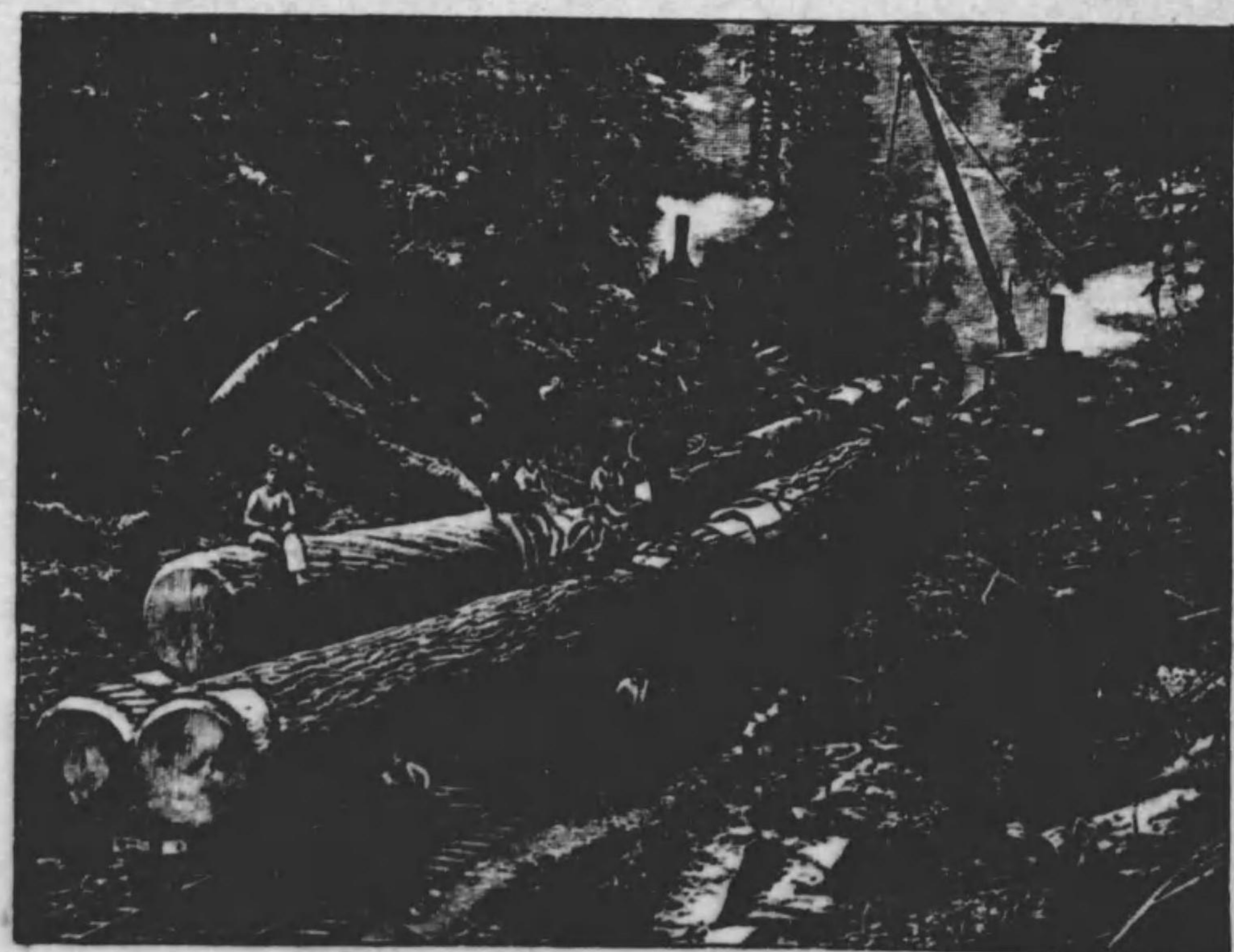
木材は建築物・家具等の材料の外、パルプの原料として近來益その需要を増加してゐる。随つて森林の保護・涵養には各國が意を用ひてゐる。

寒冷な地方の森林地帯の中、アメリカ合衆國・カナダ及びヨーロッパの中部・北部は林業が最も盛で、木材・パルプを各地に多

高地二

我が國の
林業

く輸出してゐる。シベリヤ地方にも廣大な原始林があるが、まだ殆ど利用されてゐない。熱帯地方ではアジアの南東部、南アメリカ及びアフリカ洲の森林が最も有名で、種々の良材を出すばかりでなく、又ゴムの産がある。殊にマレー半島及びマレー諸島に於けるゴム樹の栽培は甚だ盛で、世界のゴムの大部分はこの地方から出してゐる。なほ熱帯の森林からはコブラ・椰子油・樟腦・タンニン・規那等、種々の産物が得られる。我が國は山地が多く、風土が植物の生育に適し、且國土が南北



北米に於ける木材の出伐

に長いので、熱帯性から寒帯性まで、いろいろな種類の樹木がよく繁茂し、林産物は甚だ多い。

我が國の森林面積は總面積の半以上を占め、内地では本州・四國・九州及び北海道に廣く分布してゐる。樺太にも廣い原始林があつて、バルブ用材を盛に伐採してゐる。又朝鮮の北部の鴨綠江沿岸の森林、臺灣の阿里山の森林は、共に著名である。林産物としては用材・薪炭材が主なものである。又竹材の産も多い。林産物の加工品としては、バルブの外に臺灣の樟腦が著しい。

四 水産業

太平洋・大西洋の北部には淺海があり、且海流が流れてゐるので魚類が多く、随つて漁業が一般に盛である。我が北海道の近海、ニーフランドの沿海及び北海からノルウエーの近海へ

世界の水産業

かけての海洋は、世界の三大漁場と稱せられ、たらにしん・さけ・ます等の漁獲物が多い。又處によつては海藻・珊瑚等の採集及び貝類の採集・養殖も行はれ、なほ種々の水産物の加工も盛である。

我が國の水産業

我が國は四面海に圍まれ、近海には海流が流れてゐるので、魚族が豊富で、水産業の盛なことは世界第一であり、水産加工品は海外に多く輸出される。従來は主に沿岸漁業であつたが、近年、漁具の改良、漁獲方法の進歩と共に漁業區域も益々廣まり、遠洋漁業が盛に行はれてゐる。又魚介類等の養殖も次第に盛となつた。漁獲物の主なものはいわし・鯛・いかにしん・ぶり・えび・まぐろ等で、製造物にはいわしにしんの搾粕・鱧節・いわしの煮乾のり・するめ等が多い。又食塩は内地では主として瀬戸内海の沿岸に産し、なほ朝鮮・臺灣及び關東州に於てもその産額が少

くない。

五 礦 業

世界の鑛業

鑛産物の中、鐵・石炭・石油は現代の文明國にとつて最も重要な



世界の石油生産額の比較 (昭和二十年)

もので、その需要の多少は、その國の文明の程度を表すものときさへいはれてゐる。鐵は機械・兵器・艦船の製造、土木・建築等の材料として廣く使用される。鐵鑛の産出と製鍊とはアメリカ

合衆國を第一とし、ドイツ・ロシア・イギリス・フランス・ベルギー等の諸國にも盛である。石炭の産額はアメリカ合衆國に最も多く、イギリス・ドイツ・ロシア



世界の金生産額の比較 (昭和二十年)

ヤ・フランス等がこれに次いでゐる。石油はアメリカ合衆國が世界總産額の六割餘を出し、なほロシア・ペネズエラ・イラン等にも多く産する。石油は自動車・飛行機・艦船等の動力として近時その需要が急激に増加して來た。

この外、金は南アフリカ聯邦・ロシア・カナダ・アメリカ合衆國に、銀はメキシコ・アメリカ合衆國・カナダ・ペルーに、銅はアメリカ合衆國・チリ・カナダ及び我



アメリカ合衆國に於ける大石の理出

我が國の
鑛業

が國等に多く産する。又建築材料としての各種の石材の採掘も各地に行はれてゐる。

我が國は地質構造が複雑で、且火成岩の進出が多いから、鑛物の種類と産地に富んでゐるが、その産額は一般に少い。その中、やゝ産額の多いのは石炭と銅である。鐵鑛はその産出が甚だ少く、支那から多量の鑛石を輸入して製鍊してゐる。石油はその需要が急激に増加したため、國産の原油は僅かに需要の一部を充たすに過ぎず、大部分は輸入してゐる。我が國は山地が多いために、建築・土木等に廣く使用される種の石材の産に富み、各地で採掘されてゐる。

六 工業

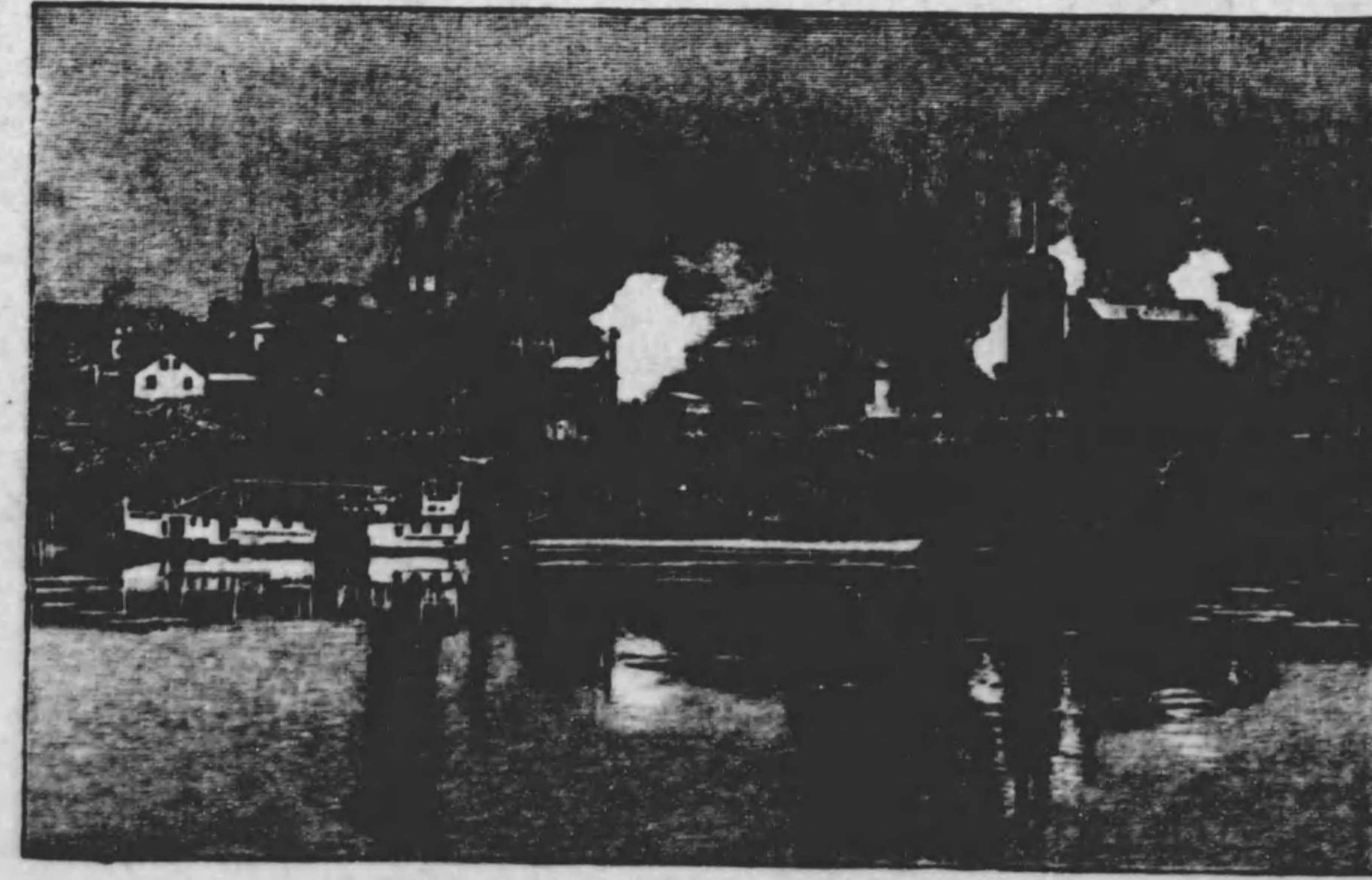


世界各國の銅産額の比較 (昭和二十年)

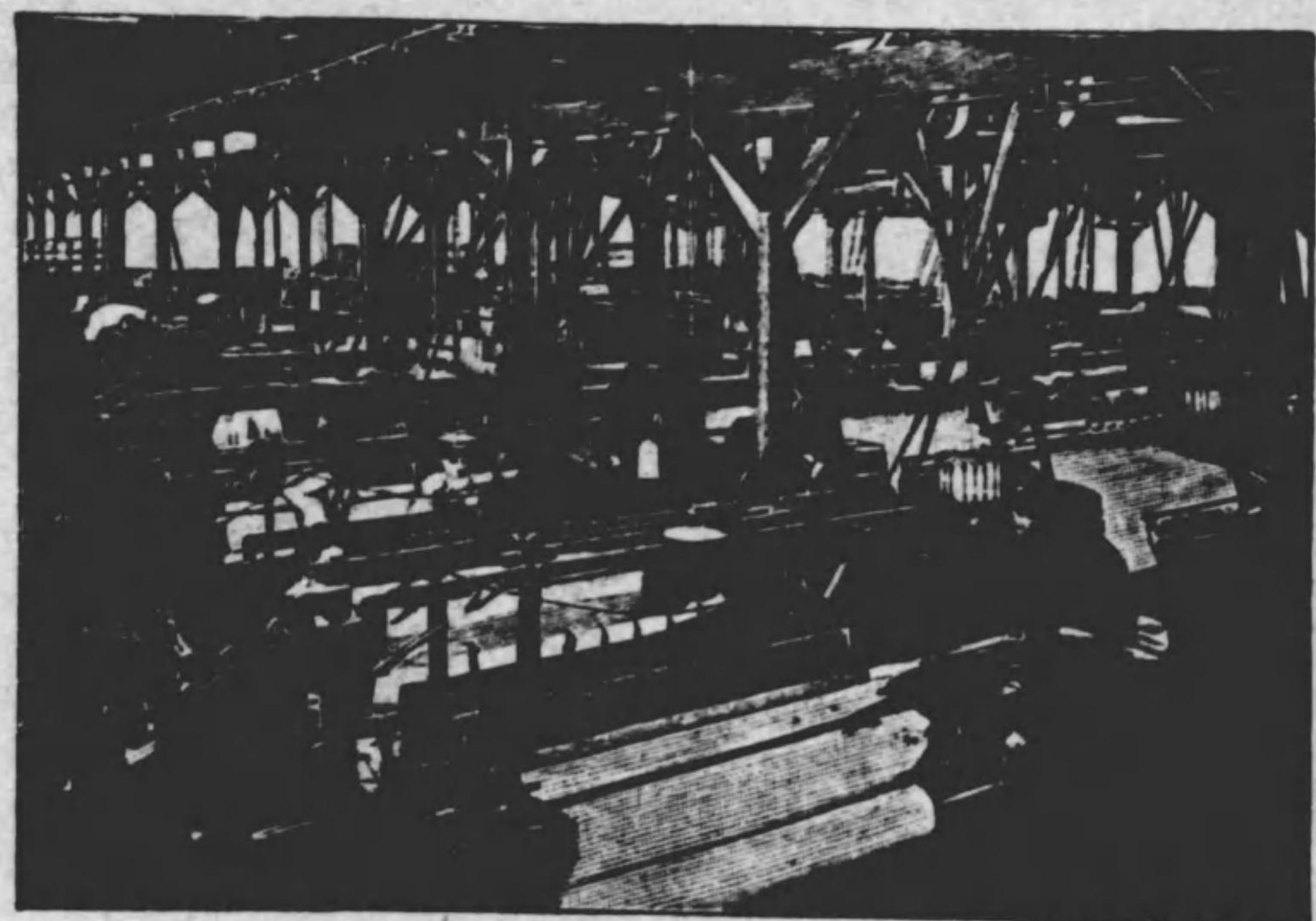
世界の工
業

近代的大工業の興るには動力や工業原料が得易く、人口が稠密で、交通の便利なことなどが必要條件であるが、なほ住民の科學的技能が優秀でなければならぬ。世界で最も工業の盛な地方はヨーロッパの中部・西部と北アメリカの東部とであるが、これらの地方は共に工業の發達に必要な諸條件をすべて具備してゐるところである。

ヨーロッパの中部・西部の中、工業の最も盛なのはイギリス・ドイツ・ベルギー・フランスに亘る地方で、



アメリカ合衆國の製鐵所



が多い。紡績業では綿絲が最も盛である。製絲業も亦重要な工業で、生絲の産額は世界第一である。又近

時、人造絹絲工業も勃興し、一般の需



我が國の製絲工場

要に應じて、その産額は急激に増加して來た。これらの生産品中、綿織物・生絲の輸出が最も多く、次いで人造絹織物・絹織物等の輸出も多い。

七 商業及び貿易

世界の商業及び貿易

商業は産業の發達と交通機關の進歩とに伴なつて大いに隆盛に赴き、外國貿易は文明國にとつて國民生活上必要缺くべからざるものとなつた。自國の需要に餘る産物を外國に輸出し、自國に不足或は全然缺乏せる産物を外國から輸入するものが貿易であつて、いはゆる有無相通ずるの手段である。又自國で生産することが出来るものでも、外國から安價に、且大量に輸入し得るものは、多くはこれを他國の供給に仰いでゐる。自國で工業がまだ發達してゐない時は工業原料品を多く産出する國でも、これを他の工業國へ輸出する。又食料品の産出が多く、自國內では人口が少くて、これを消費し切れない場合にも、亦これを他國に輸出する。工業國では多くは諸外國或は自國の植民地から原料品を輸入し、これに加工して製造品と

して外國へ輸出する。印度やオーストラリヤや南アフリカ聯邦やアルゼンチン等は主に工業原料品或は食料品を輸出し、製造品を輸入する。イギリスやドイツやベルギー等の工業國は原料品・食料品を輸入し、製造品を輸出してゐる。アメリカ合衆國の如きは工業原料品の産出が多く、中には多量に諸外國へ輸出するものも少くないが、又工業も非常に發達し、近代的機械力の使用が最も盛大であるから、原料國であると共に、又工業國である。世界で最も貿易の盛な國はイギリス・アメリカ合衆國で、ドイツ・フランス等がこれに次いでゐる。

我が國は從來農業を國民生活の基礎に置き、耕地の面積に比して、農産物の産額は甚だ多いが、人口が稠密なため、國內の消費が多く、食料品はほゞ自給自足の状態にある。一方、工業の發達は近時、極めて著しく、綿絲紡績・綿織物工業の如きは今では

我が國の貿易

世界にその覇を争ふ有様であるが、その原料たる綿は皆外國から供給を仰いでゐる。輸出品の主なものには綿織物・生絲・人造絹織物・機械及び同部分品等で、輸入品の主なものには鑛及び金屬・綿・羊毛・油脂蠟及び同製品等である。我が國は一方、工業のまだ發達してゐないアジア大陸の諸國を控へてをり、他方、太平洋に面してゐて、その周圍にある原料國たる南北兩アメリカ洲の諸國やオーストラリヤとの取引には極めて便利な位置にあるから、海上交通の發達と共に、海外から原料を輸入してこれに加工した製造品を各地に輸出することが次第に盛となり、今や世界の各地に進出して新市場を開拓しつつある。我が國の主な取引國はアメリカ合衆國・印度・滿洲・オランダ領東印度・支那・イギリス・オーストラリヤ・ドイツ等である。

第十二 交通

人類が互に往來通信し、且貨物を輸送することを交通といふ。交通機關は時代によつて變遷があり、又土地の狀況や文化の程度によつて一様でない。

陸上に於ては徒歩時代より汽車・電車・自動車の時代となり、水上に於ては帆船時代より汽船時代となつた。今日では汽車と汽船とが一般的に最も主要な交通機關である。又近年航空機の利用が盛となつて來た。通信も他の交通機關の進歩に伴つて大いに發達し、郵便・電信・電話等は廣く各地に普及してゐる。

一 陸上交通

各大陸中、鐵道網の最も密なのはヨーロッパで、北アメリカ洲がこれに次ぎ、その他の大陸はこれよりも遙かに疎である。ヨ

一 歐洲では中部及び西部が極めて密で、北アメリカ洲ではアメリカ合衆國の東半部が最も密である。國別ではベルギーが最も密で、スイス・イギリス・ドイツがこれに次いでゐる。鐵道線延長ではアメリカ合衆國が世界第一で、遙かに他の諸國を凌いでゐる。我が國では明治五年始めて東京・横濱間の鐵道が開通して以來、盛に各地に敷設せられ、今や主要な地方には概ね



道鐵の洲バツロ一ヨ

鐵道が通ずるやうになり、その總延長は年々増加してゐる。汽車と共に電車、自動車の利用も逐年増加し、殊に自動車の使用は道路の改良と相俟つて、都鄙を問はず益々盛で、重要な交通機關となつてゐる。

二 海上交通

世界の大洋中、交通の最も頻繁なのは大西洋である。これは世界に於ける商工業の二大中心地であるヨーロッパの中部、西部地方と北アメリカ洲の東部地方との聯絡路であるからである。印度洋はスエズ運河の開通によつて世界的通路としてある。印度洋はスエズ運河の開通後、新舊の價値が大いに高まつた。太平洋はパナマ運河の開通後、新舊の大陸間の交通が急速に進歩し、大西洋に代つて世界海運業の中心となる傾向を示してゐる。世界の海運界に最も優勢な地位を占めてゐるのはイギリスで、その船舶總噸數は世界船

船總噸數の約三割に及び、これに次ぐのはアメリカ合衆國である。

我が國は島國で、住民は古來海事に堪能で、沿岸のみならず、海外交通も早く開けてゐたが、鎖國政策のために、海外交通は一時挫折した。随つて明治維新

以後歐米の諸國に伍して世界の海運界に進出するには非常な困難と努力とを要したのであつた。爾來、我が國の海運業は急速に發展し、殊に世界大戰以來その發達が著しく、大いに海外航路を擴張し、今や我が航路は世界の各地と相通じ、汽船の噸數はイギリス、アメリカ合衆國に次いで世界で第三位を占めてゐる。



船舶の噸數の比較 (年二十和昭) (上以噸百)

三 航空

從來陸上と水上とに限られてゐた交通は、航空機の發達によつて遂に空界に進出するに至つた。航空交通は陸上交通とちがつて地形的障礙が少く、且極めて迅速である。ヨーロッパや北アメリカ洲では各地に旅客郵便物等の航空輸送が盛に行はれてゐる。我が國でも既に定期航空が行はれ、その發達は近時著しいものがある。

四 通信

通信機關の主體をなす郵便・電信・電話は今や國際的事業となり、世界の主な地方は互に聯絡を保つて通信が行はれてゐる。郵便物は汽車・電車・自動車・汽船等で輸送し、又近時航空機も利用されるやうになつた。電信には有線と無線との二種類があつて、各大陸に普及し、海底電線は各大陸、島嶼間を聯絡し、無線電信と相並んで大陸相互間の通信を司つてゐる。

電話にも有線と無線の別があり、有線電話は勿論、無線電話もすでに廣く實用に供せられ、ラジオも一般に普及してゐる。

第十三 世界に於ける我が國の地位

我が國は古くから支那・印度の文明を輸入し、これを我が國固有の文化の中に同化・發達せしめて獨特の文明を建設したが、その位置がアジア洲の東端にあつたのと、久しく鎖國主義をとつてゐたので、歐米諸國の近代文明と接觸する機會が少かつた。しかし明治維新以後は専ら歐米の科學的文明を攝取することに努力し、僅々五六十年の間に世界の文明諸國と比肩し得るやうになつた。殊に世界大戰以後は國內各種の産業が著しく勃興し、今や新進の強國として世界列強の間に確乎たる地位を獲得するに至つた。

しかし又一方、我が國の面積は世界列強の國土の廣大なるに比すれば、なほ遠く及ばない。しかも年々人口の増加が著しいので、國內の人口は益々稠密となるに對し、移植民の事業は從來甚だ振るはなかつた。世界にはまだ人口稀薄で開發の進まぬ廣大な地域があるにもかゝらず、それらの多くは、我が移民の入國をゆるささない。しかるに滿洲國は建國以來、我が移民を歓迎し、我が集團移民が續々同國へ移住して、その開發に努力するやうになつたことは、日滿兩國の共存共榮上、誠に喜ばしきことである。

農業は古來盛で、集約的耕作が行はれ、米をはじめ種々の農産物を産するが、國內の消費が多いため、輸出するものは少い。生絲はその産額が世界第一で、綿織物と共に我が國の最も重要な輸出品であるが、價格の變動、輸出額の増減の甚だしいこと

は、養蠶業・製絲業の健實な發展上、大きな缺點である。

牧畜業は氣候・地勢等の關係で一般に振るはず、國內で需要する羊毛は殆ど全部海外から供給を仰いでゐる。又礦物の種類には富むが、その産額の世界的にすぐれたものに乏しく、鐵石油の如き主要礦物さへ多量の輸入を必要としてゐる。

綿絲紡績・織布の如き工業は、近年長足の進歩をなし、その製品は東洋各地をはじめ、他の諸地方にも大いに進出して新市場を開拓してゐるが、諸外國は關稅政策を以てこれに對抗し、我が製品を阻止せんとする情勢にあるから、この方面に於ても決して樂觀をゆるさない。

世界大戰以來太平洋の交通は漸く頻繁となり、ひいては政治・經濟・軍事等あらゆる國際問題の焦點は大西洋から次第に太平洋に移つてきた。この世界最大の大洋に直面し、世界最大の大

陸を後背地に控へた我が帝國の將來は誠に洋々たるものがある。

昭和十二年支那事變が起つて以來、我が國は多大な犠牲を拂つて、東洋永遠の平和のために大東亞新秩序の建設に邁進してゐる。最近に於てはヨーロッパに再び戰亂が起り、ドイツ・イタリヤの二國はヨーロッパに於ける新秩序の建設に努力してゐるので、我が國はこれ等二國と共に日獨伊三國條約を結び、世界の平和のためにも努力することとなつた。我等國民は此の際一層國力の充實を期し、八紘一宇の精神を以て、非常時局の克服を計らねばならぬ。

高等小學地理書 卷二 終

高地二

昭和十五年十二月二十八日 發行
昭和十七年一月二十六日 修正印刷
昭和十七年一月二十八日 修正發行

(非賣品)

著作權所有 著者 發行者 文 部 省

印刷者 大橋光吉

印刷所 共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町百八番地



陸を後背地に控へた我が帝國の將來は誠に洋々たるものがある。

昭和十二年支那事變が起つて以來、我が國は多大な犠牲を拂つて、東洋永遠の平和のために大東亞新秩序の建設に邁進してゐる。最近に於てはヨーロッパ、巴洲に再び戰亂が起り、ドイツ、イタリヤの二國はヨーロッパ、巴洲に於ける新秩序の建設に努力してゐるので、我が國はこれ等二國と共に日獨伊三國條約を結び、世界の平和のためにも努力することとなつた。我等國民は此の際一層國力の充實を期し、八紘一宇の精神を以て、非常時局の克服を計らねばならぬ。

高等小學地理書 卷二 終

二二

（非賣品）

文部省

大橋 光 著

共同印刷株式會社

